
天覧山周辺賑わい創出業務 報 告 書

平成 29 年 3 月
飯 能 市

天覧山周辺賑わい創出業務 報告書

目 次

第 1 章 業務の概要

- 1 業務の目的----- 1
- 2 業務の実施内容----- 1

第 2 章 本市の概況等の把握

- 1 位置及び地勢----- 4
- 2 人口の動向----- 5
- 3 観光の概況----- 5
- 4 上位・関連計画における観光施策の位置付け----- 6
- 5 天覧山の概要----- 7
- 6 天覧山への来訪者の意向等----- 9
- 7 観光資源としての天覧山周辺の強み・弱み-----10

第 3 章 賑わい創出に向けた方策の検討

- 1 観光地として天覧山周辺が目指すべき姿-----13
- 2 目指すべき姿の実現に向けた施策（具体的取組）-----13
- 3 施策の推進に向けて-----19

第 4 章 資料編

- 1 ワークショップの進め方-----21
- 2 ワークショップ各回資料-----24

第 1 章 業務の概要

1 業務の目的

天覧山は、本市を代表する観光スポットであり、山容の美しさに加え、山内には名刹や史跡などが数多く点在し、埼玉県指定名勝の第一号にもなっており、市街地に隣接しているところから手軽に登れる山としても親しまれています。

本市においては、現在、平成 30 年秋に北欧のライフスタイルを体験できるゾーン「メッツァビレッジ」が開業、平成 31 年春にはムーミンの物語を主題としたゾーン「ムーミンバレーパーク」のグランドオープンが決定しており、あけぼの子ども森公園とともに、この天覧山周辺を重要な観光エリアと位置づけています。

本業務は、将来的にこの天覧山周辺のエリアを日常的に人が集う憩いの場や賑わいの場とし、中心市街地への人の流れや街なかの回遊につなげるため、市観光協会や観光団体、商店街関係者等の市民参加によるワークショップ等を行い、地域の「稼ぐ力」を引き出し、体制整備に向けた意識醸成を行うことを目的としています。

2 本業務の実施内容

（１）本市の概況等の把握

既存の統計データや上位・関連計画の整理に加え、天覧山周辺に来訪する観光客への聞き取り調査を実施し、観光のニーズや課題等を把握しました。

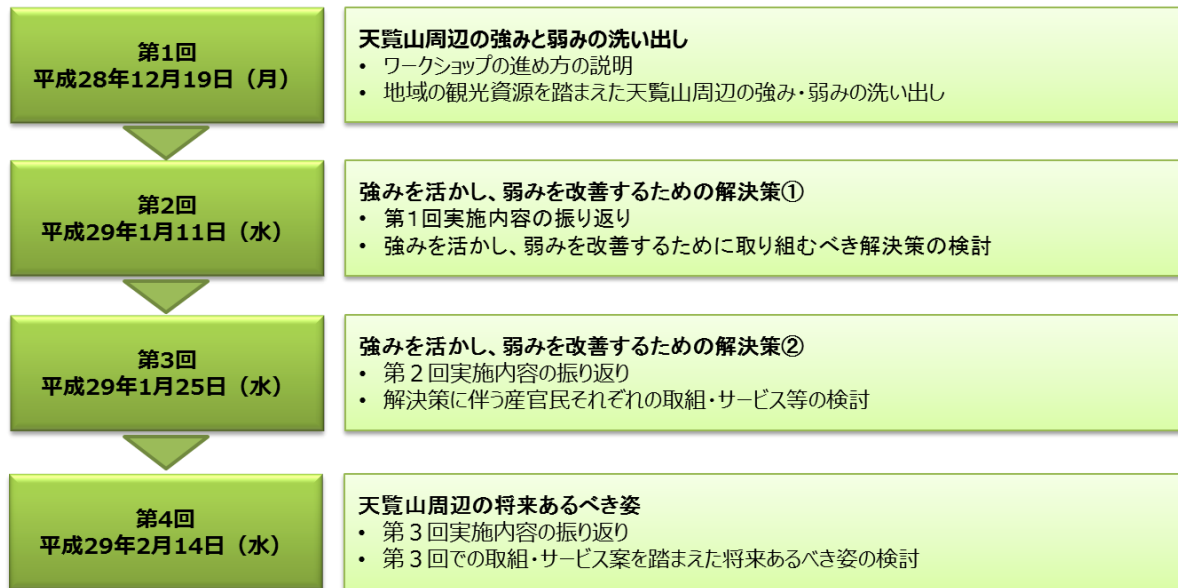
（２）天覧山周辺の賑わい創出に向けた方策の検討

観光ニーズや課題を把握した上で、観光資源としての天覧山及びその周辺の強み・弱みを整理するとともに、目指すべき姿の実現に向けた、強みを活かし弱みを改善するための施策（具体的な取組）の検討を行いました。

これらの検討にあたっては、市観光協会や観光団体、市民活動団体、商店街関係者、民間事業者等が参加するワークショップ（計４回）を実施し、参加者の意見を踏まえながら進めました。ワークショップの開催概要は次ページの図表１の通りです。

ワークショップの進め方及びワークショップ各回の資料及び参加者からの意見等は、「第 4 章 資料」をご参照ください。

図表 1 ワークショップの開催経緯



■ ワークショップの様子

（３）検討結果を踏まえた将来像の視覚化

賑わい創出に向けた方策の検討結果を受けて、天覧山周辺の将来あるべき姿や賑わいのイメージを市民等が容易に理解できるように、イラスト等を活用した「天覧山周辺将来予想図」を作成しました。

（４）天覧山周辺空間の環境整備

天覧山周辺の将来像実現に向けた第一歩として、天覧山への来訪者に、より天覧山に親しみを持っていただけるように、天覧山内の一部エリアの空間環境の整備を実施しました。

今年度は、ワークショップでの検討や意見等を踏まえ、天覧山中腹の広場である「天覧山中段」を対象エリアとし、来訪者の憩いの場とすべく、切り株の抜根や樹木の下枝剪定を行い、また、水はけの改善などを目的に広場全体及び周辺歩道へのウッドチップの敷均しを実施することで、居心地がよく憩える場として整備しました。



■天覧山中段整備前



■整備作業の様子（抜根）



■整備作業の様子（ウッドチップ敷き均し）



■天覧山中段整備後の全景



■下枝伐採後



■歩道のウッドチップ



第2章 本市の概況等の把握

1 位置及び地勢

本市は埼玉県の南西部に位置し、地形は山地、丘陵地、台地に分けられます。北西部は山地で、市域の約76%を森林が占めています。南東部は丘陵地および台地で、北の高麗丘陵と南の加治丘陵の間の台地部分に市街地が発達しています。さらに、入間川、高麗川の一級河川が、西部山地から東部台地へと流下しています。

本市は、古くは林業と織物のまちとして栄え、昭和40年代からは宅地化が進展し、高校や大学、工場などの立地も進み、首都圏の近郊住宅都市として変容を見せました。平成17年には旧名栗村と合併し、県内3番目の面積(193.05km²)を有し、東西24.81km 南北20.81kmの広がりを持っています。

都心から約50km圏内に位置し、交通アクセスも良好な環境にありながら、緑と清流という自然に恵まれています。

図表2 埼玉県内における本市の位置

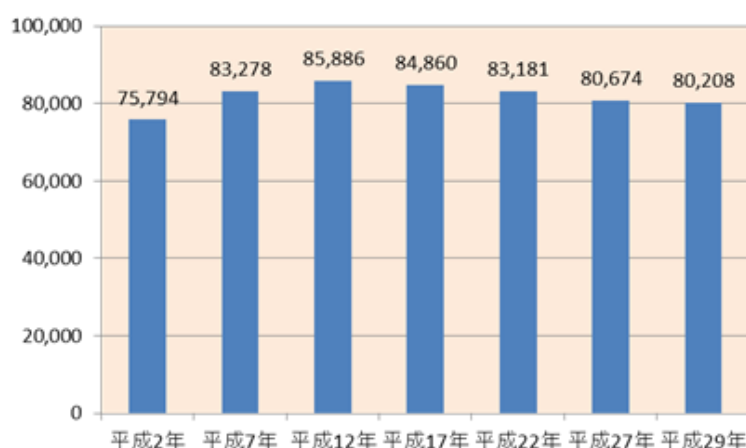


(飯能市 HP より転用)

2 人口の動向

平成 29（2017）年 3 月 1 日現在における本市の人口は 8 万 208 人です。首都圏の近郊住宅都市として人口が増加してきましたが、平成 12（2000）年の 85,886 人（旧名栗村の人口を含む）をピークに減少傾向にあります。

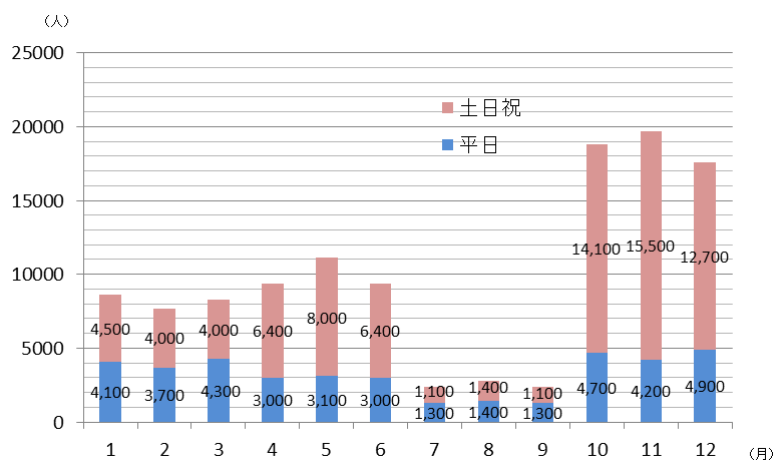
図表 3 本市の人口推移



3 観光の概況

本市は、自然、歴史・文化、イベントなどの多様な観光資源を有しており、平成 27 年の観光入込客数は年間で約 248 万人となっています。観光地点では、天覧山周辺やあけぼの子ども森公園などが多くなっています。天覧山には年間で約 12 万人の観光客が訪れており、特に紅葉シーズンを中心とした 10 月～12 月の土日祝日の入込客数が大変多くなっています。

図表 4 平成 27 年度 天覧山月別観光入込客数（推計値）



（１）総合振興計画、総合戦略での位置付け

本市の最上位計画である「第５次飯能市総合振興計画」では、「水と緑の交流によるまちづくりの新機軸」「魅力・交流・賑わい創出と経済の好循環」等を含む４つのまちづくりの基本理念を掲げ、これらのまちづくりの基本理念を基調とし、将来都市像として「水と緑の交流拠点 森林文化都市 はんのう」を目指すことが示されています。

その目標に向けて、本市の特徴でもある、都心に近く、多様で豊かな自然環境や歴史・文化等の地域資源を最大限に生かした、観光、交流、賑わいづくりのための戦略プロジェクトや基本施策が示されています。

また、「飯能市人口ビジョン」を踏まえ、実情に応じた今後５年間のまち・ひと・しごと創生に関する目標や施策の基本的方向、具体的な施策を定めた飯能市地域創生プログラム「飯能市まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、特に重点的に取り組むべき施策として、観光振興や賑わい創出が位置付けられています。

（２）観光ビジョンの策定

本市では、平成２３年に策定した観光ビジョンのもと、協働型による観光のまちづくりに取り組んできたところですが、我が国の観光形態の変化や本市の現状、課題等を踏まえて、より多くの人々を魅了する新しい観光地としての飯能を創出するため、平成２８年８月に新たな「飯能市観光ビジョン」を策定しました。

新たな観光ビジョンでは、観光の核としてのメツツアを拠点とした都市回廊空間の魅力形成、外国人もターゲットに入れた観光情報の発信強化、既存観光ルートのネットワーク化や観光施設のレベルアップ、エコツーリズムの推進を基本政策として掲げており、天覧山及びその周辺（飯能河原等）も「都市回廊空間」の核の１つとして位置付けており、基本施策において以下のように記述しています。

- ✓ 市街地を取り囲むように点在する本市の代表的な地域資源である宮沢湖のメツツア、飯能河原・天覧山エリア、あけぼの子ども森公園をつなぐ「都市回廊空間」を新たに創造し、観光の核として新たな魅力を最大限に活用するため、天覧山・多峯主山周辺において、市民や観光客が安心できる居心地の良い環境の整備を行います。
- ✓ 都市回廊空間の創造と併せて、誰もが歩きたくなり、歩いて楽しめるまちを目指して、天覧山、飯能河原周辺、メツツア、あけぼの子ども森公園や市内の寺社、ハイキング道（散歩道）などをネットワーク化して散歩ルートの設定を行うとともに、地元グルメなどの食を活かして来訪者に楽しんでもらえる取組を行います。

（１）天覧山の概要と歴史・由来

本業務の対象となる天覧山は、埼玉県指定の名勝第一号となった本市の代表的な存在です。市街地の西北、奥武蔵山塊の東端に位置し、地質は秩父古生層に属します。全山、杉や松に覆われ、中腹にはつつじ、笹が多く、頂上付近には岩石が露出しています。海拔は 195m とそれほど高くないものの、頂上からは眼下に飯能の市街地が、また遠く関東平野や富士山、スカイツリーなども望むなど、眺望に優れています。

天覧山は、もとは愛宕山と呼ばれていました。その後、徳川 5 代将軍綱吉の時に山頂付近に羅漢像が祀られたことから、羅漢山と呼ばれていました。のち、明治 16（1883）年の近衛兵大演習の際、視察のために明治天皇が登頂され、それ以降、「天覧山」と呼ばれるようになりました。

天覧山及びその周辺には、名刹能仁寺や徳川家にまつわる史跡をはじめ、郷土の武将、学者、文人等の墓や文学碑が数多くあります。

（２）天覧山周辺の主な観光資源

先述の通り、天覧山周辺は豊かな自然に恵まれており、かつ、その歴史的背景から多くの歴史・文化資源が分布しています。ここでは、天覧山周辺の主な観光資源を「自然」「歴史・文化」の 2 つに分類し整理します。

1) 自然

① 市街地に近い里山環境

天覧山は市街地の近くに位置しますが、動植物を始めとした豊かな自然が残されています。自然に気軽に触れ合うことができる歩道（登山道）が整備され、子どもたちの遠足や家族連れのハイキングコースとしても知られています。

2015 年 12 月には、「様々な生物をはぐくむ豊かな自然を持ち、次世代に残すべき」として、環境省が選定する「重要里地里山 500」にも選ばれました。天覧山と多峯主山の間にある東谷津田（下写真）では、谷津田再生等、里山の自然保全に係る様々な活動が実施されています。



■ 東谷津田の風景



■ 谷津田再生地

② 多様かつ貴重な動植物

天覧山周辺には、「ムササビ」や「タヌキ」などの動物が数多く生息しているほか、東谷津田には、希少な「ヘイケボタル」が生息しています。

植物では、1915年に発見されたヤマツツジとサツキの自然交配種と言われる「ハンノウツツジ」や、1926年に発見された「ハンノウザサ」（埼玉県指定天然記念物）等、飯能の地名を冠した植物も自生しています。

2) 歴史・文化

① 能仁寺とその周辺

戦国時代に創建された能仁寺は、中山家の一統である黒田家を大檀那として、この地方の曹洞宗の中心的な寺です。

慶応 4(1868)年 5 月の飯能戦争の本陣となり、その際に、宝物や古文書の多くを焼失してしまいましたが、天覧山の南斜面を巧みに利用した「池泉（ちせん）観賞式蓬莱庭園」等や中山勘解由三代の墓等の史跡が残っています。

また、能仁寺裏山の天覧山中腹の切り立った崖には、徳川五代将軍綱吉の生母桂昌院寄進によると言われる「十六羅漢」の丸彫坐像があります。

多峯主山まで足を延ばすと、多峯主山頂直下には、未だ一度も水が枯れたことがないと言われる「雨乞い池」や、登り口には常盤御前が源義経を追って東国に向かうときに振り返ったために付けられたと言われる「見返り坂」等の伝説も残されています。



■ 能仁寺庭園



■ 中山勘解由三代の墓



■ 十六羅漢像

② 芸術文化作品の舞台

本市が舞台となった漫画・アニメ「ヤマノススメ」では、天覧山が何度も登場しており、いわゆる「聖地」としても認知されるようになっています。

また、三島由紀夫の小説「美しい星」では、「羅漢山」として描かれるなど、芸術文化作品の舞台としても描かれています。

6 天覧山への来訪者の意向等

本業務では、天覧山周辺の賑わい創出に向けた具体的な方策の検討を行うにあたって、天覧山に来訪する観光客などの実状やニーズ等を把握するための調査を実施しました。実施した調査の概要及び調査結果を以下に記載します。

（１）来訪者の意向等把握のための調査概要

実施日時： 平成 28 年 11 月 26 日（土）9:00～15:30

実施場所： 天覧山登山口（能仁寺境内入口）

実施方法： 調査員による対面聞き取り調査

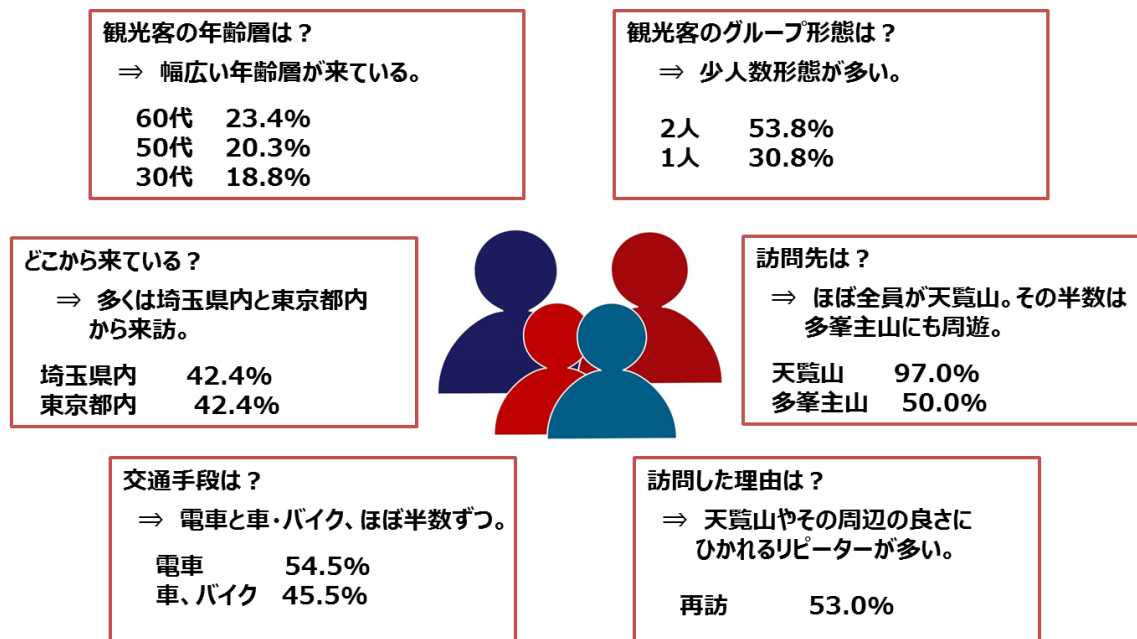
回答数： 66 組（グループで来訪されている方は 1 組としてカウント）

（２）天覧山周辺への来訪者像

調査の結果、天覧山周辺への来訪者の特徴は、以下のような傾向が見られました。

- ✓ 来訪者は若い世代から中高齢者まで幅広い世代
- ✓ 少人数での来訪が多い
- ✓ 多くは埼玉県内と東京都内等の近場から来訪しており、電車（駅から徒歩）と車での来訪がほぼ半数
- ✓ リピーターが半数以上

図表 5 観光客アンケートから見える、天覧山周辺への来訪者像



調査結果の詳細については、「第 4 章. 資料編」をご参照ください。

(3) 調査により抽出されたニーズ・課題等

この調査からは、情報発信の強化に係るニーズ・課題が浮かび上がりました。

- 天覧山の良さをよりよく知ってもらうためには現地でのさらなる情報発信が必要
 - ✓ 天覧山来訪者の満足度は総じて高く、天覧山周辺を体感した方には、その魅力は十分に伝わっていると思われる。
 - ✓ 半数以上はリピーターであったが、一方で、インターネットでキーワード検索（例：紅葉、子ども連れ、ハイキングなど）した結果、天覧山を見つけて初めて来訪する者も多い。
 - ✓ ただし、インターネットでの情報は、天覧山を知る入口であり、現地に来てから詳細な情報を得ようとした来訪者からは、天覧山周辺で詳細な情報が得られるようにしてほしいとの声があった。
 - ✓ また、どこに行けばパンフレットや地図が貰えるかといった声もあった。観光案内所等で配布しているところではあるが、十分に認知されていない点は課題と考える。

7 観光資源としての天覧山周辺の強み・弱み

(1) 天覧山周辺の強み・弱みの整理

これまでに整理した本市の概況や天覧山周辺への来訪者に実施したアンケート及び、第1回ワークショップ（強み・弱みの洗い出し）での検討を踏まえて、観光資源としての天覧山及びその周辺の強み・弱みを図表5の通り整理しました。

図表 6 天覧山周辺の強み・弱み（1／2）

強み	弱み
・ 老若男女、レベルに応じて山と自然を楽しめる（レベル：子どもたちの遠足、高齢者の散歩、ハイキング・登山、岩登り等） ・ 都心から近く、飯能駅からも徒歩でアクセスできる ・ 身近に豊かな自然、動植物と触れ合うことができる ・ 寺社や史跡などの歴史・文化を感じられる観光資源が多数存在する	・ 紅葉シーズン以外（特に夏場と冬場）の来訪者が少ない ・ 天覧山周辺の歩道（登山道）整備に回遊性、バリアフリー等の視点で改善の余地がある ・ 天覧山麓の施設（郷土館や市民会館等）や中央公園などをより効果的に活用する余地がある ・ 案内所や休憩所、トイレなどの観光客向け施設が少ない

図表 6 天覧山周辺の強み・弱み（2／2）

強み	弱み
・ 自然環境や歴史・文化等を対象としたエコツーリズムが活発 ・ 天覧山周辺の里山再生や固定種野菜の再生などに取り組む市民活動が存在する ・ 発信価値のある地域資源や天覧山周辺に由来する情報が多数ある ・ 飯能ブランドの固定種野菜や昔ながらのお菓子等のオンリーワンの食材がある	・ 多言語対応や外国人観光客向けメニュー等のインバウンド対応が弱い ・ 様々な観光資源や活動を体系的かつターゲット（年代、性別等）を絞った効果的な情報発信力が弱い ・ 飯能のオンリーワンの特産物や食材が十分に知られていない

（2）強み・弱みから見える天覧山周辺の賑わい創出に向けた課題

天覧山周辺は、歴史・文化、自然などの多種多様な観光資源に恵まれ、それらを目当てにした幅広い世代が来訪しています。再訪する者も多くいることから、観光地として十分魅力あるエリアであると言えます。

一方で、数多くある観光資源を十分に生かし切れていない現状も見られます。現行の強み・弱みを踏まえた課題を、大きく6つの視点で整理しました。

1）より幅広い世代やレベルへの対応強化

天覧山周辺は、現在でも多くの老若男女が来訪し、豊かな自然に触れ楽しめるエリアですが、さらなる来訪者の増加と満足度向上を目指して、天覧山内及び周辺の回遊性の向上やバリアフリー等への対応に関しては改善できる余地があると考えます。

2）子どもたちを対象にした取組の充実

学校の遠足や自然学習、家族でのハイキング等で天覧山周辺を訪れる子どもたちは多く、子どもたちにとって天覧山周辺は身近で親しみやすい存在であると言えます。その強みを伸ばすためにも、天覧山周辺の様々な魅力を伝えるためのさらなる取組の強化・充実が必要と考えます。

3）再訪やファンづくりのための取組の充実

天覧山周辺には、夏は夏の、冬は冬の魅力があると考えます。この2つの時期の観光客数をさらに伸ばし、年間を通じた賑わいの創出に向けては、これらの時期の魅力をより広く認識してもらう取組や、年間を通じた連続性のある取組が必要であると考えます。

4）インバウンドへの対応強化

2020年の東京オリンピックに向けて日訪日外国人観光客の増加も想定されることから、都心から近く、利便性の高い本市にとっては、訪日外国人観光客を呼び込む絶好の機会であると

考えます。より多くの訪日外国人観光客に天覧山周辺や本市の魅力を体感いただくために、インバウンド対応強化は必要不可欠であると考えます。

5) 観光資源や活動から「お金」を生む仕組みの創出

地域経済にとっては、観光資源や様々な団体・市民による観光振興等の活動を経済活動に結び付けていくことも必要です。天覧山周辺が賑わい、交流の場として活性化していく中で、消費を意識した取組も検討していくことが必要であると考えます。

6) 情報発信の充実・強化

天覧山周辺には数多くの観光資源（自然、歴史文化、施設等）が存在し、様々な団体、市民による観光、自然保護などの活動が実施されていますが、それらが市民や観光客には十分に知られていない現状が見られます。また天覧山麓の郷土館等を情報発信拠点として効果的に活用する余地もあります。観光資源や様々な特徴的な活動を、情報として体系的かつターゲットに応じた効果的な発信が課題であると認識します。

第3章 賑わい創出に向けた方策の検討

1 観光地としての天覧山周辺が目指すべき姿

天覧山周辺の賑わい創出に向けた、目指すべき姿を以下に示します。

(1) 目指すべき姿 ーキャッチフレーズー

「四季」と「歴史」を活かした、賑わいと交流をもたらすエリア

(2) 基本理念

- 市観光協会や観光団体、商店街組合等の関係団体や民間事業者など多様な主体との連携・協働のもと、天覧山周辺の豊かな自然環境や歴史・文化に培われた地域資源を活用し、天覧山周辺の可能性を最大限に引き出した、子どもからお年寄りまで、市民にとっても観光客にとっても魅力あふれるエリアを目指します。
- これまでの来訪者の中心的存在であった子どもや高齢者はもとより、若者や訪日外国人観光客等の新たなターゲットに訴求できるエコツアーや文化体験等のメニューの充実や戦略的なプロモーション活動を積極的に推進し、地域で稼ぎ、いつも賑わいを感じることができるエリアを目指します。

2 目指すべき姿の実現に向けた施策（具体的取組）

(1) 施策の基本方針

強み・弱みから見えた課題を解決し、目指すべき姿を実現するための基本方針を以下のよう設定します。

- ①老若男女誰でも楽しめる天覧山周辺の新たな魅力づくり
- ③子どもたちの記憶に残る仕掛けの充実
- ②再訪やファンづくりにつながる新たな仕掛けづくり
- ④インバウンド対応の推進
- ⑤天覧山周辺の稼ぐ力の強化
- ⑥様々な媒体による情報発信・広報の強化・充実

(2) 基本方針を踏まえた施策（具体的な取組）

1) 老若男女誰でも楽しめる天覧山周辺の新たな魅力づくり

① 天覧山周辺の環境整備

施策内容	- 老若男女が安全に、かつ安心して天覧山周辺の魅力を体感できるように、ハード面での整備を推進します。 - 整備にあたっては、車いすの方や高齢者などにも訪問していただけるように、バリアフリー等の観点でも検討します。
具体的な取組例	- 天覧山中段を、眺望や植栽、史跡等を活かして。みんなが憩い楽しむことができる賑わいのある拠点性の高い広場として整備【今年度事業にて実施済】 - 歴史・史跡等を説明する案内板の整備強化 - 天覧山頂上までのコースのバリアフリー化 - トイレ、ベンチ等の来訪者ニーズを踏まえたインフラの整備 等

② 天覧山周辺の回遊性向上

施策内容	能仁寺や天覧山中段等を拠点として、天覧山周辺（飯能河原、多峯主山等）の回遊性を高め、天覧山周辺の魅力をより認識してもらう取組をハード、ソフト両面から検討・実施します。
具体的な取組例	【ハード事業】 - 各ルート等への案内板等の整備強化 - 天覧山麓回遊のためのレンタサイクルの整備 等 【ソフト事業】 - 天覧山周辺を回遊するスタンプラリーの開催 等

2) 子どもたちの記憶に残る仕掛けの充実

① 自然や歴史文化に触れて記憶に残るメニューの充実

施策内容	天覧山周辺の地域資源を活用し、「わくわく遠足」やエコツアーなどとも連携しながら自然や歴史・文化に触れ記憶に残る子ども向けメニューを充実して体系化し、子どもたちの興味関心に応じて様々な学習や活動ができる環境を整えます。
具体的な取組例	- 森やニコニコ池、東谷津等の自然環境を教材とした環境教育（森の楽校、水辺の楽校、里の学校 等） - 歴史・文化探索ツアー - ヤマのアスレチックコースの整備 - キャンプ体験 等

3) 再訪やファンづくりにつながる新たな仕掛けづくり

① 継続して訪問（再訪）してもらうための仕掛け

施策内容	天覧山周辺に魅了され、何度も訪問していただけるように、四季毎に楽しんでもいただける仕掛けづくりや連続性のある取り組みの充実を図ります。
具体的な取組例	- 四季折々の花が咲く植栽の整備（初夏：アジサイ等） - 既存のイベント（飯能夏祭り等）とも連携した天覧山周辺での四季折々のイベントの開催 - 連続性のあるウォーキングラリーやスタンプラリーの開催 - 天覧山麓での朝市、定期市等の物販の開催 等

② ファンになってもらうための仕掛け

施策内容	- 再訪いただく中で、天覧山周辺や当市により親しみを感じていただき、天覧山や本市のファンになってもらうために、女性や若者等のターゲットを明確にしながら、地域の資源（人やモノも含む）も活用・連携した取組を検討します。 - 天覧山周辺を題材にした作品等との連携強化を図ることで、作品などのファンにも天覧山周辺に訪問してもらい、天覧山の自然や歴史・文化に触れていただけることに繋がります。
具体的な取組例	- 桜等の植樹オーナー制度 - 天覧山周辺賑わいサポート倶楽部（仮称）の創設と特典の提供 「ヤマノススメ」や「美しい星」との連携強化（エコツアーと現地ツアーのコラボレーション、作品での登場場所の案内 等） 等

4) インバウンド対応の推進

① 訪日外国人観光客向けメニューの開発・充実

施策内容	2020 年の東京オリンピック開催等により、今度、訪日外国人がさらに増加することが予想されます。 - 最近の訪日外国人観光客は、主要都市や主要観光地だけではなく、自然環境や地方にも目を向けるようになっていきます。都心からの近さ、利便性等の立地を活かして、日本の自然環境や歴史・文化に触れることができるメニューの充実を図ります。
具体的な取組例	- 里山等の日本の自然環境に触れるエコツアー - 谷津田再生田を活用した田植え体験 - 能仁寺等と連携した歴史・文化体験 等

② 多言語化対応の強化

施策内容	訪日外国人向け体験メニューを充実させるとともに、天覧山周辺の魅力の理解促進を図るために、多言語化対応を図ります。
具体的な取組例	- 天覧山周辺の案内板や歴史・施設説明板、パンフレット等の多言語化 - 外国語対応可能な観光ボランティア、エコツアーガイドの配置 等

5) 天覧山周辺の稼ぐ力の強化

① 観光資源を活用した消費行動の促進

施策内容	- 鉄道利用者、車利用者の両者にとって、天覧山周辺の観光拠点となりうる、天覧山麓の既存施設（郷土館等）や中央公園、中段などの空間の利活用を図りながら、天覧山周辺で消費行動を起こしてもらえよう、その機会の創出と、地域資源の磨き上げにより、「ここにしかない」ものを提供します。 - 固定種野菜の復活などに取り組んでいる市民団体等もあることから、それらの活動の後押しにもつながる取り組みも検討します。
具体的な取組例	- 天覧山麓（市民広場等）での固定種野菜等を販売する朝市の開催 - 能仁寺にぎわい門前市の拡大（定期化、常態化）の検討 - グランピング（自然体験＋快適サービスの提供）等の非日常の場の創出の検討 等

6) 様々な媒体による情報発信・広報の強化・充実

① ターゲットや発信媒体の特性を踏まえた情報発信

施策内容	より多くの世代に天覧山周辺や当市の良さを認知していただけるよう、天覧山周辺の魅力や取組に関する情報を、ターゲットを絞った効果的な情報発信ができる仕組みを整備します。
具体的な取組例	- SNS やフェイスブック等の ICT を活用した情報の整理、体系化 - 天覧山周辺の魅力を詰め込んだプロモーションビデオの作成と動画サイト等での発信 - 飯能市にゆかりのある著名人による「飯能観光大使」の任命と様々な媒体による情報発信 等

② 天覧山周辺での情報発信の強化

施策内容	エコツアーガイド等の活動拠点として、また、天覧山周辺を訪問した観光客や登山客が自然や歴史・文化、その背景にある「物語」等について、気軽に学び触れることができる環境の整備を図ります。
具体的な取組例	郷土館等の既存施設を活用したビジターセンター（仮称）の整備 等

天覧山周辺の将来あるべき姿（検討資料）

- 関係団体や民間事業者など多様な主体との連携・協働のもと、天覧山周辺の豊かな自然環境や歴史・文化に培われた地域資源をさらに磨き上げ、天覧山周辺の可能性を最大限に引き出した、子どもからお年寄りまで、市民にとっても観光客にとっても魅力あふれるエリアを目指します。
- これまでの来訪者の中心的存在であった子どもや高齢者はもとより、若者や訪日外国人観光客等の新たなターゲットに訴求できるエコツアー等のメニューの充実や戦略的なプロモーション活動を積極的に推進し、地域で稼ぎ、いつも賑わいを感じることができるエリアを目指します。

将来像

案① 磨き上げた地域資源が賑わいと消費をもたらすエリア（まち、地域）

案② 地域資源を活かした市民と観光客が共に集うエリア（まち、地域）

案③ いつ来ても新たな魅力が発見できるエリア（まち、地域）

「将来像につながるキーワード群」

子ども、高齢者、若者層、外国人（インバウンド）、誰でも、集う、楽しむ、賑わい、消費、稼ぐ、魅力、再訪、都心から近い、地域資源、磨く、豊かな自然、歴史・文化、エコツーリズム、回遊、ターゲット、情報発信

老若男女誰でも楽しめる天覧山周辺の新たな魅力づくり
（対応する現状：強み①、②、弱み①、②）

- さらなる観光客・登山客の増加を狙い、バリアフリー等も意識した登山道や休憩所等の充実を図る。
- 天覧山中段を、眺望や植栽、史跡等を活かしたパワースポットとして位置付け、みんなが憩い楽しむことができる賑わいのある拠点性の高い広場として整備すると共に、市民が自身を持って
- 能仁寺、中段等を拠点として、天覧山、多峯主山等の自然に親しみ楽しむことができる回遊性の高いコースの充実を図る。

天覧山周辺の稼ぐ力の強化
（対応する現状：強み⑤、⑥、⑦、弱み③）

- 鉄道利用者、車利用者の両者にとって、天覧山周辺の観光拠点となりうる、天覧山麓の既存施設（郷土館等）や中央公園、中段などの空間の利活用を図る。
- 関係団体や民間事業者など多様な主体との連携・協働により、自然や歴史・文化、特産品、エコツアー等の取組等の様々な魅力ある地域資源を活かしながら、いつも賑わいと活気にあふれる空間の創出を図る。

様々な媒体による情報発信・広報の充実
（対応する現状：弱み⑤、⑥）

- より多くの世代に飯能の良さを認知していただけるよう、天覧山周辺の魅力や取組に関する情報を、ターゲットを絞った効果的な情報発信ができる仕組みを整える。
- エコツアーガイド等の活動拠点を整備し、天覧山周辺を訪問した観光客や登山客が自然や歴史・文化、その背景にある「物語」等について、気軽に学び触れることができる環境の整備を図る。

インバウンド対応事業の推進
（対応する現状：強み②、③、④、⑤、弱み④）

- 増加する訪日外国人を呼び込むため、都心からの利便性や天覧山周辺の豊かな自然環境や歴史・文化等の観光資源を活かした、訪日外国人旅行客のニーズにあったエコツアーや観光・体験メニューの充実を図る。
- 看板や案内板等の多言語対応をさらに図り、訪日外国人観光客に優しい天覧山周辺の地域づくりを推進する。

再訪やファンづくりにつながる新たな仕掛けづくり
（対応する現状：強み①、②、④、⑤、⑦）

- 四季折々の天覧山周辺を楽しんでもらえるエコツアーの充実に加え、ウォーキングラリーやスタンプラリー等の仕掛けを定期的、継続的に企画・実施することで、リピーター獲得やファンづくりを加速させる。
- 女性や若者等のターゲット毎に、自然（花、野生動物、地形等）や食、パワースポットなどを組み合わせたメニューを充実させ、様々なファン層の開拓を図る。

子どもたちの記憶に残る仕掛けの充実
（対応する現状：強み①、②、⑤、⑥）

- 子どもたちの遠足での来訪や家族での来訪を促進するため、「わくわく遠足」や「エコツーリズム」等を活用して、子ども向けの自然体験や歴史・文化探索等の「記憶に残る」メニューの企画・充実を図る。

賑わい創出のための施策、方向性

強み（良いところ、伸ばしたいところ）

- ① 老若男女、レベルに応じて山と自然を楽しめるルート（子どもたちの遠足、高齢者の散歩、山登り）がある
- ② 豊かな自然、動植物と触れ合うことができる
- ③ 都心から近い（飯能駅からも徒歩でアクセスできる）
- ④ 天覧山周辺に寺社や史跡などの歴史を感じられる観光資源が多数存在する
- ⑤ 自然環境や文化・歴史等を対象としたエコツーリズムが活発
- ⑥ 天覧山周辺の里山再生などに取り組む市民活動が存在する
- ⑦ 飯能ブランドの昔野菜や昔ながらのお菓子等のオンリーワンの食材がある 等

弱み（改善したいところ）

- ① 天覧山周辺の登山道、歩道整備に回遊性、バリアフリー等の視点で改善の余地がある
- ② 案内所や休憩所、トイレなどの観光客向け施設が少ない
- ③ 天覧山麓の施設（郷土館等）や公園などをより効果的に活用する余地がある
- ④ 多言語対応や外国人観光客向けメニュー等のインバウンド対応が弱い
- ⑤ ターゲット（年代、性別等）を絞った効果的な情報発信が弱い
- ⑥ 飯能のオンリーワンの特産物や食材が十分に知られていない 等

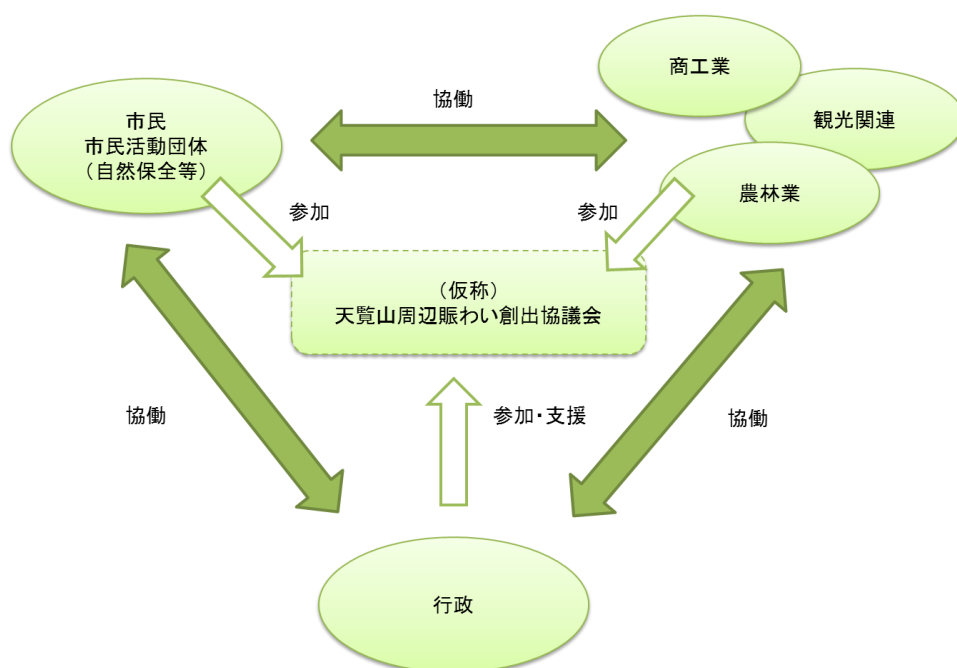
現状の「強み」と「弱み」

3 施策の推進に向けて

施策の推進にあたっては、市民、観光協会、観光関連事業者・団体の他、地域の農林業、商工業等の各種団体、事業者といった、関係主体が協働しながら取り組んでいくことが大切です。また、それぞれが主体性を持ちつつ、得意とする分野を活かし、共に力を合わせながら施策を進めて行く必要があります。

将来的には、各種団体や市民等からなる組織が中心になりながら、天覧山周辺の賑わいを創出し、観光振興を図っていくことが望まれます。

図表 7 推進体制イメージ



4 本業務の成果と今後の展開

本業務の検討を通じて、ワークショップの参加者等が、天覧山周辺が魅力ある観光資源であることを改めて認識し、天覧山周辺の賑わい創出に向けて取り組む意識の醸成ができたと認識しています。

また、検討内容を踏まえて、天覧山中段の空間環境整備を行い、天覧山周辺の賑わい創出への第一歩を踏み出しました。

今後は、「天覧山周辺将来予想図」を活用しながらより広く市民への啓発を実施し、多くの市民の理解・協働のもと、さらなる賑わいの創出を目指していきます。

第4章 資料編

本事業で実施したアンケート調査結果、ワークショップ各回資料等を添付します。

天覧山周辺賑わい創出のためのワークショップ ご説明資料

1. ワークショップのねらい

- 飯能市では、平成 28 年 8 月に「飯能市観光ビジョン」を策定しました。横浜市までの鉄道の相互直通運転が開始されたことや北欧の雰囲気とムーミンの世界を体験できる施設「メッツァ」のオープンも決定する中で、多くの人を魅了する新しい観光地としての飯能の創出に取り組んでいくことになります。特に、飯能市市街地に近い天覧山は、これまでも市を代表する観光スポットとして、市内外の人に親しまれてきましたが、飯能市観光ビジョンではこの天覧山とその周辺を改めて重要な観光エリアと位置づけ、官民の協力・連携によって、ここに憩い・賑わいの場を創り出すこととしています。
- このワークショップは、地域の事業者や各種団体、市民グループの皆様にお集まり頂き、天覧山周辺の魅力、憩い・賑わいのイメージ、憩い・賑わいが生まれることによって、事業者・各種団体・市民グループの皆様が、皆様自らの事業や活動の機会を拡大し豊かにできることについて認識を深めてもらい、憩い・賑わいのある天覧山周辺の将来像と将来像を実現するアイディア・ご意見を出し合って頂くことをねらいとしています。

2. ワークショップの実施要領

- ワークショップは、飯能市より委託されたコンサルタントが、進行役とホワイトボードでの整理・記録役を務め、参加メンバーの皆様の議論をお手伝いいたします。
- 短時間での議論を効率的に進めるべく、以下のルールで進めます。当日皆様で議論頂く他に、次回までの宿題やご自身での付箋紙への意見出しをしていただくこともありますのでご了承下さい。

*** 円滑な運営に向けた会議のルール ***

- ①メンバー全員が対等な立場にあり、自由な発言を行うことを尊重しましょう。
 - ②各メンバーの発言を尊重し、はじめから否定することのないよう配慮しましょう。また、メンバーの話を遮るような発言は慎み、円滑な会議進行に努めましょう。
 - ③限られた時間の中、各メンバーができるだけ多く発言できるよう、一度に述べる意見は1点ずつにし、発言時間が長くないよう配慮しましょう。
 - ④特定の個人や団体などのひぼう中傷につながる発言はやめましょう。
 - ⑤全体を見渡した視点から議論を行い、特定の地域や団体などの個別利益だけを優先する立場に陥らないようにしましょう。
 - ⑥意見が対立した場合、問題の所在などを明らかにし、合意形成に向けてお互いに歩み寄りましょう。
 - ⑦いったん合意した内容は尊重し、元に戻すことなく、議論を前に進めましょう。
 - ⑧会議の内容の取扱いについては、十分に注意しましょう。(ブログ・SNSへの書き込みなど)
- ◆特に、個人情報については、保護の重要性を十分認識し、メンバーの利益を害することのないよう努めましょう。

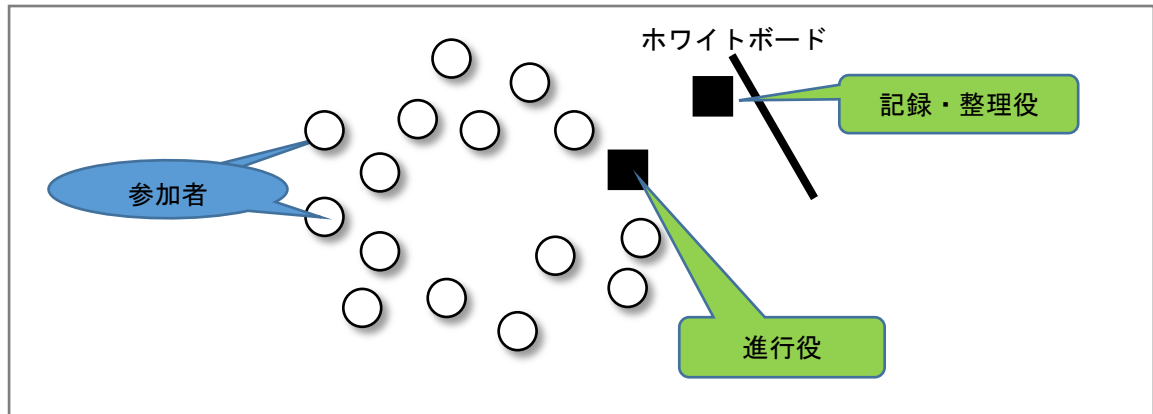
3. ワークショップ全体の概要

回	開催日時	会場	議論のテーマ	討議・検討内容等
1	平成 28 年 12 月 19 日(月)19～21 時	飯能市役所 別館2階 会議室3	天覧山周辺の強みと弱みの洗い出し	・ (ワークショップの進め方の説明) ・ 地域資源を踏まえた天覧山周辺の強み・弱みの洗い出し
2	平成 29 年1月 11 日(水)19～21 時	飯能市役所 別館2階 会議室3	強みを活かし、弱みを改善するための解決策①	・ 第1回実施内容の振り返り ・ 強みを活かし、弱みを改善するために取り組むべき解決策の検討
3	平成 29 年1月 25 日(水)19～21 時	飯能市役所 別館2階 会議室3	強みを活かし、弱みを改善するための解決策②	・ 第2回実施内容の振り返り ・ 解決策に伴う産官民それぞれの取組・サービス等の検討
4	平成 29 年2月 14 日(火)19～21 時	飯能市役所 別館2階 会議室2	天覧山周辺の将来あるべき姿	・ 第3回実施内容の振り返り ・ 第3回でのサービス・商品・活動案を踏まえた将来あるべき姿の検討 ・ これまでの意見とりまとめ

4. 第1回のプログラム

時間割(予定)		内 容
19:00	～ 19:05 5 分	1. 開会 ・ 開会挨拶 ・ 本ワークショップのねらい
19:05	～ 19:25 20 分	2. 自己紹介(お名前、ご所属)
19:25	～ 19:30 5 分	3. ワークショップの趣旨と進め方ご説明
19:30	～ 20:45 75 分	4. ワークショップ「天覧山周辺の強みと弱みの整理」 ・ 地域資源を踏まえた天覧山周辺の強み・弱みの洗い出し
20:45	～ 21:00 15 分	5. 閉会 ・ 本日の議論の振り返り ・ 次回についてのご案内

ワークショップでの議論のイメージ



【ご意見・アイデアを出す場面】

- 進行役が司会を務め、各テーマと討議・検討内容に沿ってご意見を伺っていきます。進行役は必要に応じて、皆様の意見に対して説明を求めたり、質問を行います。
- 記録・整理役がホワイトボードまたは模造紙にご意見を書き出していきます。

【ご意見・アイデアを整理する場面】

- 進行役が司会を務め、既に出たご意見・アイデアについて、その共通点や違う点についてご意見を伺っていきます。進行役は必要に応じて、皆様の意見に対して説明を求めたり、質問も行います。
- 記録・整理役が、議論の結果、同じ・似ているとなったもの同士をまとめ、そのまとまり＝グループに名前をつけたり、位置を変える、複数のグループを再度まとめたり、グループ間の関係矢印等で整理します。

◆第1回での配布資料

- ① 「ワークショップの進め方」(本資料)
- ② 天覧山の基本情報
- ③ 飯能奥武蔵ハイキングガイド&マップ
- ④ その他

天覧山周辺賑わい創出のためのワークショップ（第1回） ～ 天覧山の基本情報 ～

【「飯能市観光ビジョン」における天覧山の位置付け】

- 平成28年8月に策定された「飯能市観光ビジョン」の基本施策の中で、天覧山は「都市回廊空間」の核の1つとして位置付けられています。
- 市街地を取り囲むように点在する本市の代表的な地域資源である宮沢湖のメツツア、飯能河原・天覧山エリア、あけぼの子どもの森公園をつなぐ「都市回廊空間」を新たに創造し、観光の核として新たな魅力を最大限に活用するため、天覧山・多峯主山周辺において、市民や観光客が安心できる居心地の良い環境の整備を行います。（【基本施策1 「観光はんとう」の魅力向上】視点①都市回廊空間を核とした新たな魅力づくり）
 - 都市回廊空間の創造と併せて、誰もが歩きたくなり、歩いて楽しめるまちを目指して、天覧山、飯能河原周辺、メツツア、あけぼの子どもの森公園や市内の寺社、ハイキング道（散歩道）などをネットワーク化して散歩ルートの設定を行うとともに、地元グルメなどの食を活かして来訪者に楽しんでもらえる取組を行います。（【基本施策4 観光地としてのレベルアップ】視点①歩いて楽しめる空間づくりの推進）

■ 天覧山の歴史・由来

天覧山

埼玉県指定名勝第一号となった山で、飯能の象徴的な存在です。海拔195mで地質は秩父古生層に属します。全山、杉、松に覆われ、中腹にはつつじ、笹が多く、頂上付近には岩石が露出しています。この山は、麓にある①曹洞宗能仁寺の所有で、もとは愛宕（あたご）山と呼ばれていましたが、その後、山頂付近に②羅漢像がまつられたことから、一時期、羅漢山と呼ばれるようになったと言われています。のち、明治16(1883)年の近衛兵大演習の際、視察のために明治天皇が登頂されて以来、天覧山と呼ばれています。山容の美に加えて、山内に名刹能仁寺や郷土武将、学者、文人等の墓や文学碑も数多くあります。



① 曹洞宗 能仁寺

創建は戦国時代、寺に残されている「武州能仁寺記」によると、中山家範がその父君家勝の冥福を祈るため創建したとあります。また「能仁寺鐘銘并序」には家勝その人の創建になるものと記されています。いずれにしても、中山家に関係あるもので、以後中山家の一統である黒田家を大檀那として、この地方の曹洞宗の中心なお寺となりました。慶応4(1868)年5月の飯能戦争の本陣となり、その際に、宝物や古文書の多くを焼失してしまいました。

能仁寺庭園

天覧山の南斜面を巧みに利用し、「池泉（ちせん）観賞式蓬莱庭園」という庭園様式で作られています。面積は1090㎡で、池泉の面積は134㎡。池泉の左手にある亀島に対岸から石橋が渡されていますが、これは明らかに当初の手法を残すもので、桃山時代の作庭とされています。



能仁寺中山勘解由三代の墓

武蔵七党の一つ丹党の加治家季の子、助季が中山の地に住み始めてから中山氏を名乗ったとされ、以来中山宗家を継ぐものは勘解由（かげゆ）を称していました。家勝、家範、照守の三代は戦国時代末期から江戸時代初期の戦乱期に武士として活躍しました。



② 羅漢像（天覧山十六羅漢）

能仁寺裏山の天覧山中腹の切り立った崖の所々に十六羅漢の丸彫坐像があります。かつて羅漢山と呼ばれたことがあるのはこの羅漢像があることによります。造立者名から推測すると造立年代は寛政年代と考えられます。



■ 多峯主山 — 天覧山から足を延ばして —

多峯主山

天覧山の北西にある海拔271mの山で、山頂からは富士山や、大岳山などの奥多摩の山並み、伊豆ヶ岳などの奥武蔵の山並みが眺められます。山頂にある経塚は、石に経文を書いて土の中に埋めた塚で、約1万2千個の石が埋蔵されており、明和2(1765)年の年号が刻まれた供養塔が建っています。山頂直下には、未だ一度も水が枯れたことがないと言われる「雨乞い池」が、登り口には、常盤御前が源義経を追って東国に向かうときに振り返ったために付けられたと言われる「見返り坂」等の伝説が残されています。

雨乞い池

多峯主山の登り口の「見返り坂」を登った先は道が男坂と女坂の二手に分かれます。この女坂を歩いていったところにこの池があります。干上がることのない池で、かつては雨乞いを行ったということです。また、鼻をつまみ息を止めて七廻りすると、池の中に異変がおこるといった伝説もあります。



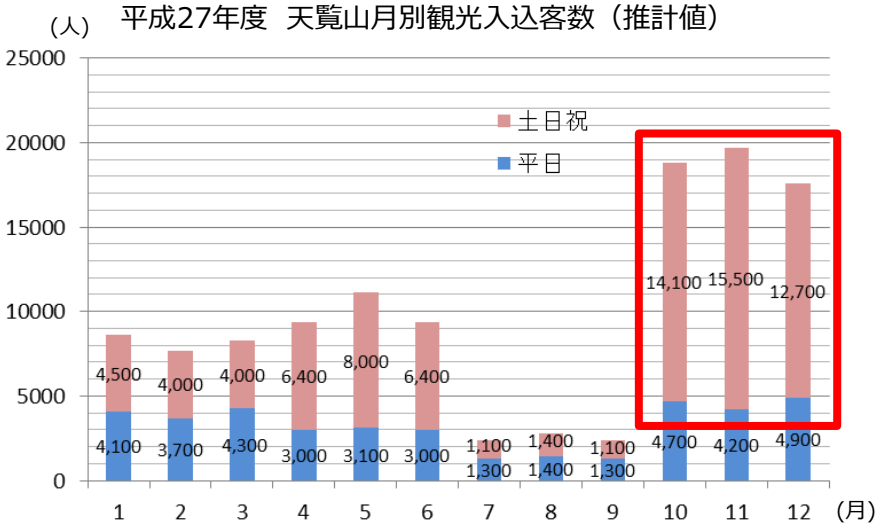
多峯主山黒田直邦墓

直邦を葬った地点に自然石を置いて石柵を設け、その前に墓碑と太宰春台の撰・書になる頌徳碑（しょうとくひ）が建てられています。直邦は、寛文6(1666)年に中山直張の三男として生まれ、外祖父黒田直相に養育され黒田氏を称しました。五代將軍綱吉に仕え、のち沼田城主となり、飯能地方を領しました。



■ 天覧山への入込客数

天覧山には年間で約12万人の観光客・登山客が訪れており、特に紅葉シーズンを中心とした10月～12月の土日祝日（下図グラフの赤枠部分）の入込客数が大変多くなっています。



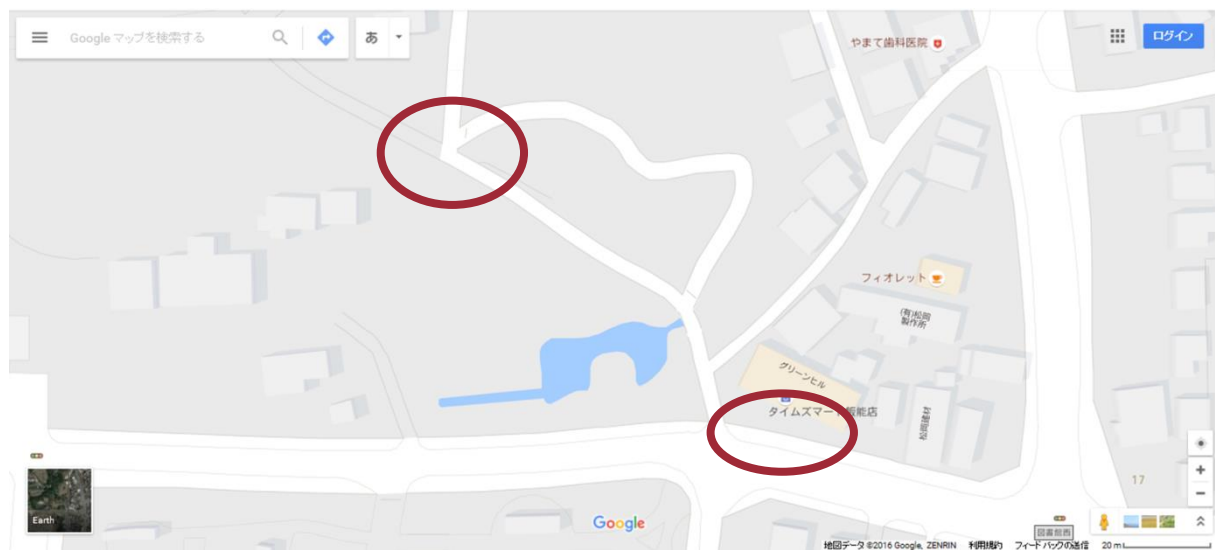
天覧山周辺賑わい創出のためのワークショップ
第1回資料

天覧山周辺への観光客アンケートから 見えてくる現状

平成28年12月19日

観光アンケート実施概要

- 調査目的： 天覧山及び飯能市訪問の実態と訪問ニーズを把握し、天覧山及び周辺での将来的な「賑わい」を創出するための方策（特に観光資源や交通インフラの整備、プロモーション等）の立案・検討の材料とすることを目的とする
- 実施日時： 2016年11月26日（土） 9:30～15:00
- 実施場所： 能仁寺境内 及び タイムズマート飯能店前（下図地図の赤枠）



- 調査方法： 調査員2名による上記地点における聞き取りアンケート
- 収集サンプル数：66組

観光アンケートから見える、天覧山への観光客像

観光客の年齢層は？

⇒ 幅広い年齢層が来ている。

60代	23.4%
50代	20.3%
30代	18.8%

観光客のグループ形態は？

⇒ 少人数形態が多い。

2人	53.8%
1人	30.8%

どこから来ている？

⇒ 多くは埼玉県内と東京都内から来訪。

埼玉県内	42.4%
東京都内	42.4%

訪問先は？

⇒ ほぼ全員が天覧山。その半数は多峯主山にも周遊。

天覧山	97.0%
多峯主山	50.0%

交通手段は？

⇒ 電車と車・バイク、ほぼ半数ずつ。

電車	54.5%
車、バイク	45.5%



訪問した理由は？

⇒ 天覧山やその周辺の良さにひかれるリピーターが多い。

再訪	53.0%
----	-------

天覧山周辺に対する観光客からのご意見

【良い点】

■ 利便性

- ・ 鉄道の駅から近い。
- ・ 都内から一番近い。（高尾山よりも近い）
- ・ 都内から乗り換えなしに来られる。
- ・ 駐車場が無料で使える。

■ 地域資源

- ・ 埼玉で紅葉と言ったら、ここ。
- ・ 市内に寺院が多い。
- ・ 周辺のお店（和菓子、飲食店）が良い。
- ・ イタリアン、おまんじゅう、草餅が美味しい。

■ その他

- ・ 身近で安全。
- ・ 老若に関わらず楽しめる。

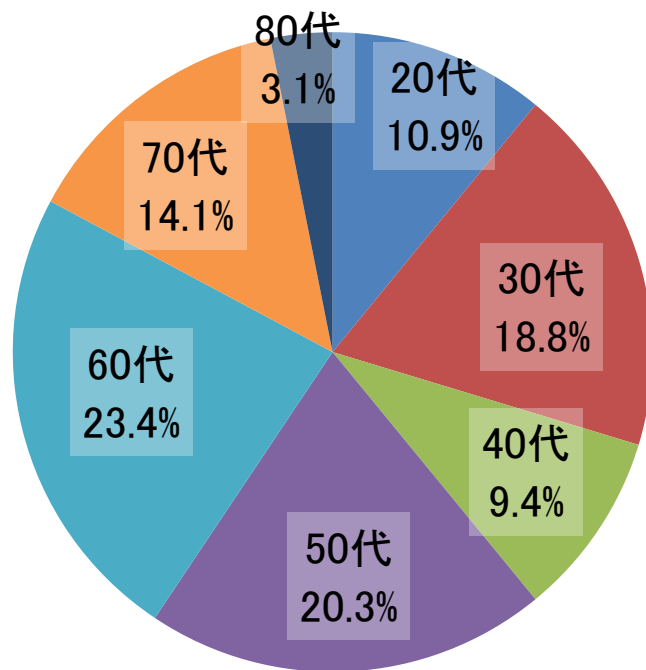
【改善してほしい点 等】

- ・ 周辺で看板以外の情報が得られない。
- ・ 市民会館等に周辺の地図やパンフレットを設置してほしい。
- ・ 駐車場が空いていないことが多い。
- ・ 武蔵横手駅方面に行きたかったが、丘の上公園から先の道が分かりづらく、標識を整備してほしい。
- ・ 展望台に設置されている山並みが描かれている銅板？にスカイツリーや富士山なども入れてほしい。

調査結果（１）

1. （回答者の）年齢層

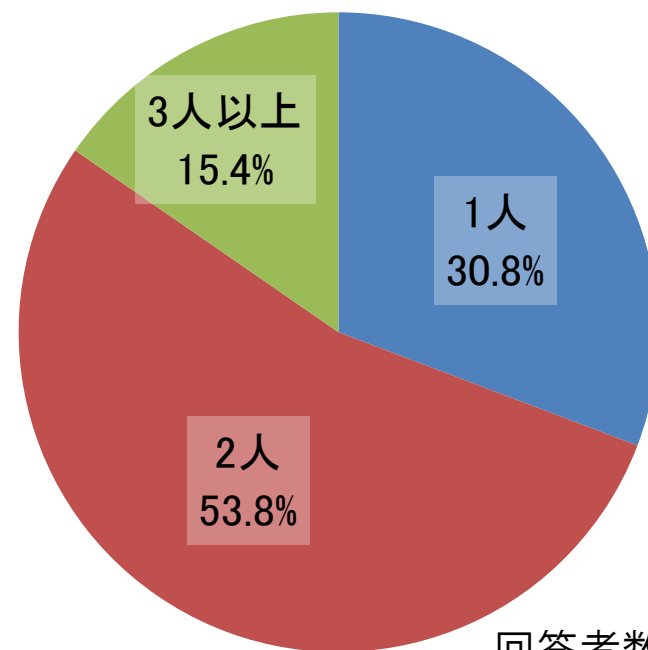
「60代」が23.4%と最も多く、次いで「50代」が20.3%、「30代」が18.8%と続く。
観光客の年齢層に大きな偏りがないことが伺える。



回答者数=64
(違う年代の方が
混ざったグループの
回答は除いている)

2. （回答者の）グループ構成

ご回答者を含み「2人」（ご夫婦、カップルなど）で来ているグループが53.8%で半数を超える。
次いで、「1人」が30.8%、「3人以上」のグループが15.4%となった。



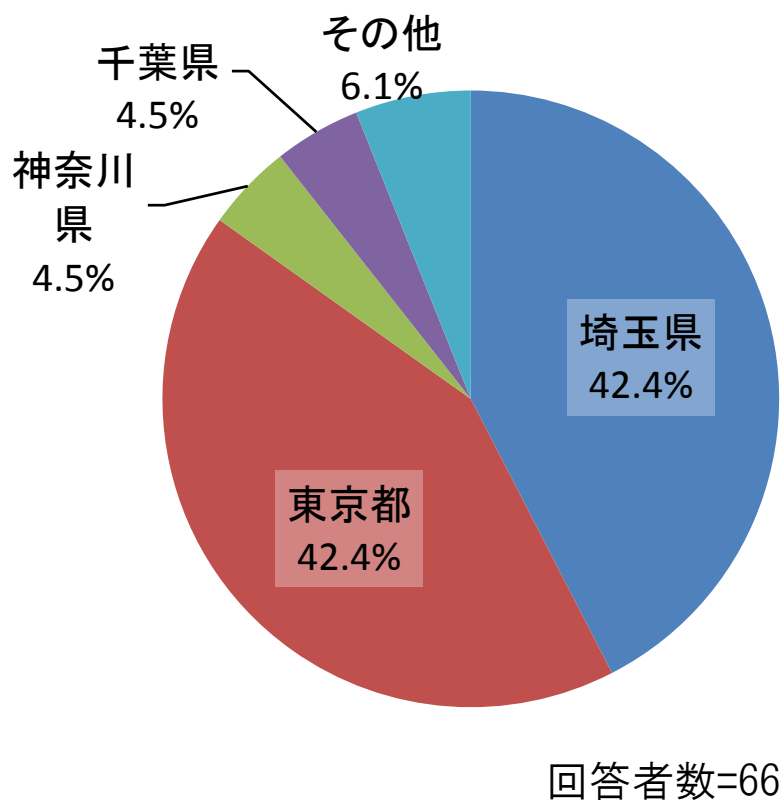
回答者数=66

「2人」は2人で訪問された方のうちお一人が回答された場合、「3人以上」は3人以上で訪問されたうちお一人が回答された場合を示す。

調査結果（２）

３．出発地

「埼玉県」と「東京都」がともに42.4%で、
「埼玉県」と「東京都」で約85%を占める。



市区町村別は、以下の通り。

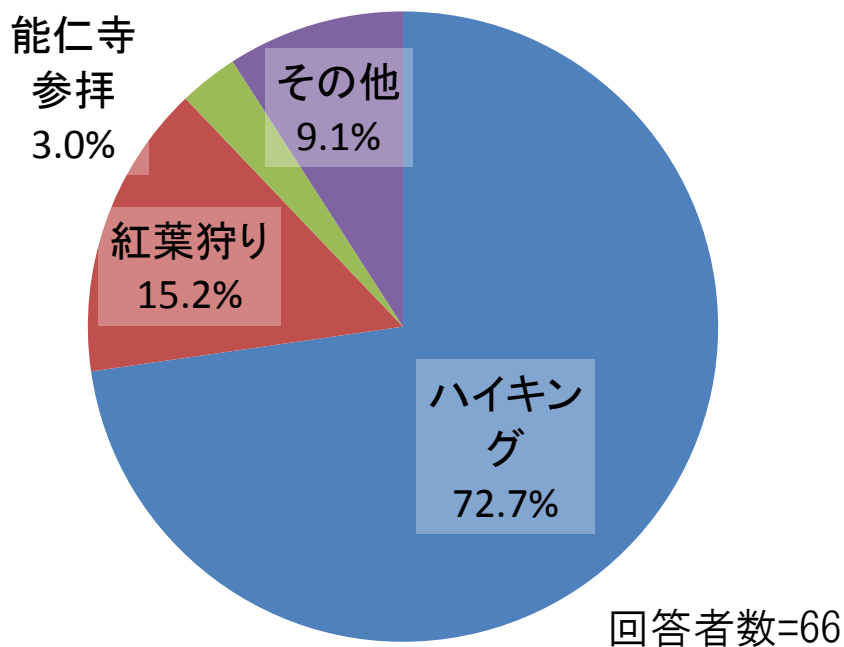
市区町村名		回答数
埼玉	さいたま市	5
	所沢市	4
	狭山市、ふじみ野市、	3
	吉川市、入間市	2
	川口市、蕨市、戸田市、鴻巣市、八潮市、	
	上尾市、川越市、鶴ヶ島市	1
	無回答	1
東京	練馬区	6
	墨田区、中野区、豊島区、小平市、清瀬市	2
	文京区、品川区、大田区、渋谷区、板橋区、葛飾区、立川市、武蔵野市、国分寺市、東大和市、西東京市	1
	無回答	1
千葉	船橋市、我孫子市	1
	無回答	1
神奈川	横浜市	3
その他	群馬県高崎市	1
	群馬県（熊谷市のそば）	1
	山形県天童市	1
	マレーシア（板橋区滞在）	1

調査結果（3）

4. 主な訪問目的

「ハイキング」が72.7%と最も多く、次いで「紅葉狩り」が15.2%で続く。

その他としては、「ヤマノススメの聖地巡礼」「観音めぐり」等が挙げた。

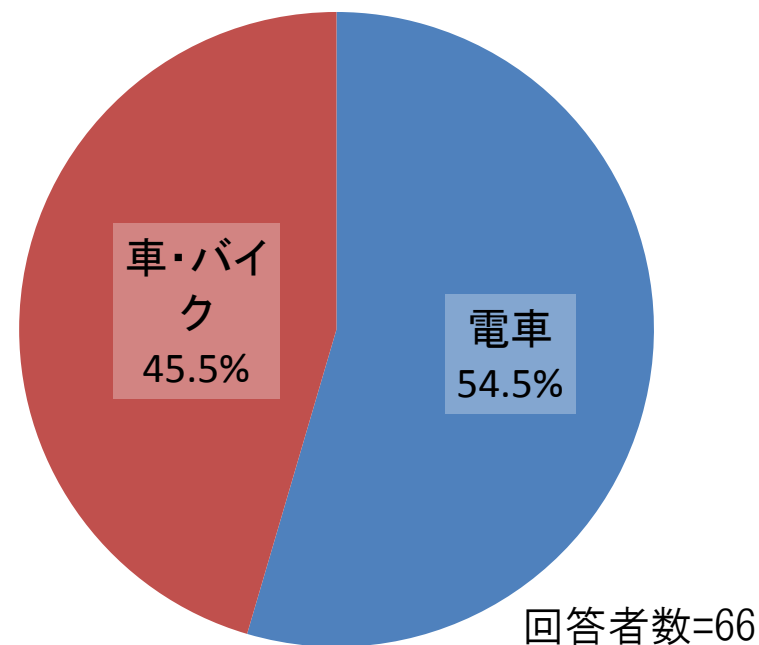


※ 「ハイキング」には、山歩きや散歩、トレッキング等も含む

5. 交通手段

電車利用と車・バイク利用でほぼ半数ずつとなった。

「神奈川県」から「電車」利用と回答した計3組は、東急東横線、地下鉄副都心線、西武池袋線のダイレクト運転を利用してきたと回答している。

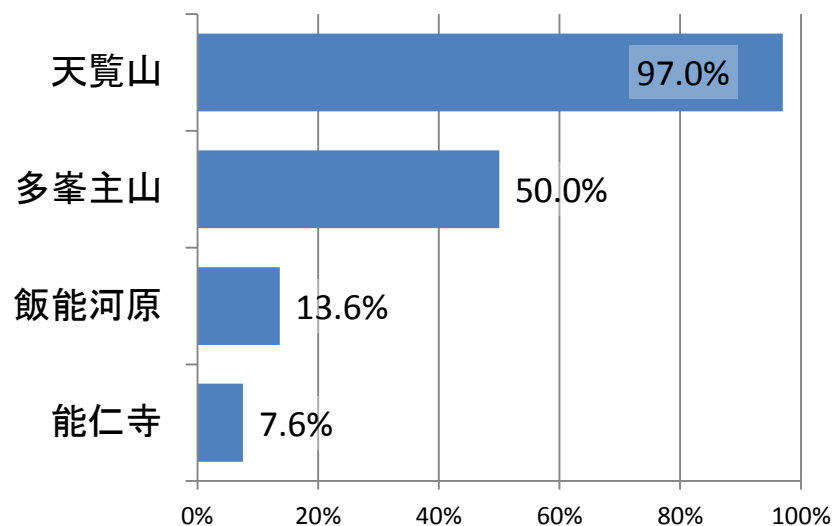


調査結果（４）

６．主な訪問先と周遊ルート

主な訪問先を聞いたところ、ほぼ全員（97.0%）が「天覧山」、次いで「多峯主山」が50.0%で続いており、約半数が天覧山と多峯主山を周遊していることが伺える。

その他、「日和田山」「巾着田」「高麗」「あけぼの子どもの森公園」等が訪問先として挙がった。

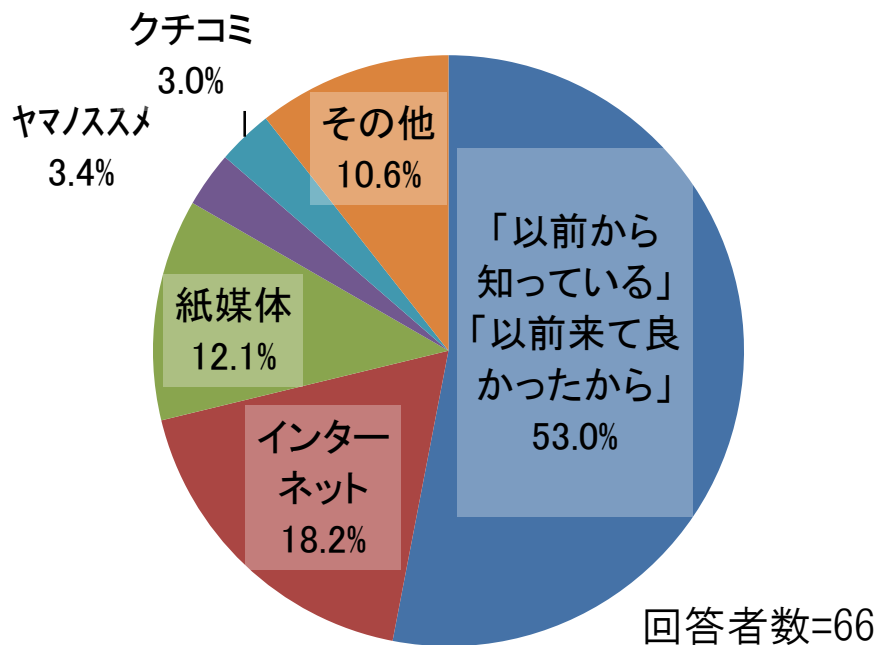


回答者数=66、ただし複数回答

７．訪問した理由、訪問を決めた情報源

最も多かったのが「以前から知っている」「以前来て良かったから」等、過去の経験で再訪した方が53.0%と過半数を占めた。毎年来ている、数十回来ているという方も多かった。

次いで、「インターネット」が18.2%、「紙媒体」が12.1%で続く。



※ 「紙媒体」は、書籍、旅行雑誌、パンフレットなど

天覧山周辺賑わい創出のためのワークショップ

第1回とりまとめ資料 ①

第1回ワークショップの概要

実施日時：平成28年12月19日（月） 19:00～20:40

実施会場：飯能市役所別館2階 会議室3

参加者数：13名 （欠席者5名）

- 飯能市では、平成28年8月に「飯能市観光ビジョン」を策定し、多くの人を魅了する新しい観光地としての飯能の創出に取り組んでいくことになりました。特に、天覧山とその周辺を重要な観光エリアと位置づけ、官民の協力・連携によって、ここに憩い・賑わいの場を創り出すこととしています。
- それらの背景を踏まえて、このワークショップは、地域の事業者や各種団体、市民グループの皆様が参集し、天覧山周辺の魅力を認識し、憩い・賑わいのある天覧山周辺の将来像と、その将来像を実現するアイデア・意見を出し合うことをねらいとしています。
- ワークショップの第1回目では、11月26日に実施した観光アンケート調査結果（ワークショップ当日に報告）等の情報も踏まえながら、参加者全員で天覧山周辺の「強み」と「弱み」を洗い出しました。

天覧山周辺の「強み」と「弱み」

分類		強み	弱み
天覧山及び周辺の ルート・回遊性		・ 老若男女誰でも登れる ・ 登山ルートが硬軟バラエティに富んでいる(岩登りができる一方、緩やかなコースもある) ・ 子どもたちでも登りやすい（小学校の遠足コースにもなっている） ・ 天覧山は普段着の山だが多峯主山まで行くと山歩きの良さを実感できる ・ 山と河原の良さを同時に楽しむことができる ・ 多峯主山には健康を意識して登山する人が多くみられる【追加意見】	・ 車いす利用者が天覧山頂上まで登れない等のバリアフリー化が進んでいない ・ 登山道の足元が整備されておらず登りにくいところがある ・ 天覧山の中で回遊できるルートがない（回遊する場合、車道歩きがある）
天覧山周辺までの アクセス・交通		・ 標高が低くて駅からも近いため誰もが気軽に訪れやすい ・ 都心から近い ・ 都心から近いため電車で来て歩くことができる【追加意見】 ・ 駅からの送迎(周遊)バスがないことによるまちなかへの人の流れの発生【追加意見】	・ 駅からのアクセスが悪い ・ 飯能駅から天覧山へ至る歩道や案内板の整備が不十分 ・ 高麗方面までの歩道や案内板が整備されていない ・ 市内の観光地を巡るバスルートがない
施設		・ 多峯主山にキレイなトイレが整備されている（多峯主山で休憩やお昼を取る人も増えた） ・ 多峯主山のトイレの完成により安心して来られる【追加意見】	・ 観光客向けのトイレ（特に女性用トイレ）や休憩所が少ない ・ 天覧山周辺の貴重な花などを紹介するビジターセンターの類がない
地域資源	自然	・ 身近に自然と触れ合うことができる ・ うさぎ・いのしし・むささび・フクロウ等の多様な動物が生息している ・ 四季折々の花を観賞できる	・ ランなどの貴重な花を観光客等が摘み取ってしまう（マナーの問題？貴重であることのPR不足？）
	食	・ 飯能ブランドとして昔野菜（固定種）がある ・ しりもち、味噌付けまんじゅうなど、昔ながらのお菓子がある（ただし日持ちはしない）	・ 天覧山周辺で飲食できるお店が少ない ・ 飯能に行くとこんなに美味しいものが食べられるというものが不足している ・ 飯能と言えば「これ」という食材が不足している ・ 特定の飲食店に観光客が集中している
	観光	・ 観光資源に非常に恵まれている（広報・宣伝は課題） ・ 東京スカイツリーも見えるなど天覧山からの眺望がすばらしい ・ 古い歴史を感じられる史跡が多数ある ・ 天覧山は埼玉県で第一号の名勝指定地である ・ 飯能市は舞台訪問の人気ランキング3位の知名度を誇る（1位は秩父市、2位は茨城県大洗町）	・ 観光客が飯能市内にお金を使わない ・ 7～9月（夏期）に天覧山を訪れる観光客が少ない(飯能河原には来ている) ・ ニコニコ池周辺が有効利用されていない（昔は東雲亭などがあった）
情報発信・P R		・ 飯能市が舞台の三島由紀夫作「美しい星」の映画化を契機にした広報活動ができる	・ 案内板の多くが多言語表記されていない ・ 高尾山と比べて外国人の観光客が少ない ・ 木の名前等を紹介する樹名板が少ない ・ 能仁寺・天覧山・飯能河原に力点を置いたPRが足りない ・ 歴史や文化等を紹介してくれるボランティアガイドが少ない ・ ボランティアガイドはいるがPR不足で認知されていない
市民活動		・ 里山の再生に取り組む市民活動が活発である ・ 飯能ブランドの野菜（昔野菜）の普及促進に取り組んでいる	

※ 意見の後に【追加意見】とあるものは、ワークショップ開催日以後に「追加意見シート」で提出いただいたご意見です。

■ 第2回、第3回ワークショップに向けた「具体的な事業案シート」（宿題シート）の作成について

第1回ワークショップで皆さんから出していただいた「強み」と「弱み」を踏まえて、第2回、第3回のワークショップでは、「強み」を伸ばし、「弱み」を改善するために取り組むべきことを考えていきます。「強み」をさらに伸ばすためには、「弱み」を改善するためには、どのような事業を実施していくことが効果的でしょうか？第2回ワークショップ（平成29年1月11日）までに、参加者それぞれで「具体的な事業案シート」の各項目について考えて記入いただき、第2回、第3回ワークショップではそれを元に参加者全員で事業案を議論することになります。

記入例

天覧山周辺賑わい創出のためのワークショップ(第2回・3回用)
具体的な事業案シート

記入者名（ ）

天覧山周辺に 思い・賑わいを 創るために	①事業等の名称 (仮称で可)	イベント時の中央公園～飯能河原間での物販等機能		
	②事業等の内容	・ さくらまつり、飯能まつり等のイベント時に、能仁寺前～飯能河原間で露天等の臨時物販店を開設する。 ・ 想定される業種としては祭りの露天等で一般的に提供される食べ歩きフードだけでなく、飯能水、すいーとん、味噌付けまんじゅう等の地元グルメ（市内飲食店やJA、郷土料理研究グループ等による臨時出店）、フリーマーケット、ヤマノススメ関連グッズ、観光案内等		
	③事業等によって期待される効果	・ 物販での売上が得られる。 ・ 天覧山～飯能河原間の賑わいと人の動線を創り出すことができる。臨時の出店で反応がよいものは、常設での販売も検討できる。 ・ 飯能市の産品を市内外の人に知ってもらうことができる。		
	④実施する上での問題点・課題	・ 出店者募集 ・ とりまとめ主体		
	⑤担い手と役割分担	A 商店街	・ 出店者募集	出店のための協議会を設立して出店者募集・調整・とりまとめ等を行う
		B 商店街	・ 出店者募集	
		JA	・ 出店者募集	
		ファミリーマート	・ 出店	
		●●	・ 出店	
	⑥必要な行政支援	・ 道路使用許可 ・ イベント広報への組み込み		
⑦調整が必要な外部組織と調整内容	・ 商工会議所等に対して物販店設置についての事前調整			
⑧その他留意事項等	・ 協議会が主体となって、事業の効果を検証して次のイベント・次年度に活用すると共に、常設での事業の可能性とこれに適した業種・出店者を検討する。			

【宿題シートを作成いただく上でのお願い】

- **事業案毎に「事業案シート」を作成**してください。（1事業1シート）
- 既存の事業や枠にとらわれず、「こんな取組があったら面白い」等と思う事業を描いてみてください。
- 事業案を検討するにあたっては、**女性の視点も必要不可欠です**。ぜひ**ご家族やご友人等の女性のアイデアやご意見もお聞さいただきながら作成**をお願いいたします。
- 事業案シートの作成が難しい場合でも、各項目（①～⑧）に沿ったアイデアを考えてきてください。

- ・ 「いつ」、「どこで」、「どんなことをするのか」、できるだけ具体的に記入します。
- ・ 事業でなくても、小規模な取組やサービスのアイデアでも構いません。

- ・ 天覧山周辺の賑わいや憩いを創出するために、「②事業等の内容」で記入した事業（取組、サービス）を実施した場合、「どのようなことが起きるのか」、「どのような効果が得られるのか」を具体的に記入します。
- ・ 「ヒト（人）」「モノ（物）」「カネ（カネ）」の観点で整理してみると、分かりやすくなります。
※ 「ヒト」・・・消費者、観光客、交流人口、雇用創出 等
「モノ」・・・新たな地域資源(産品、観光スポット等)、サービス、イベント 等
「カネ」・・・販売（消費）額、観光収入 等

- ・ 「②事業等の内容」で記入した事業（取組、サービス）を「誰がやるのか」を記入します。
- ・ まちの賑わいを創出し継続していくためには、行政（「官」）だけに頼らず、商店や商店街、民間企業、NPO等の「民」が、それぞれの持ち味を生かしながら連携して取り組んでいくことが必要不可欠です。
- ・ さらに、「民」だけでなく、地元の大学（学生）や中学・高校（生徒）なども担い手となって参加し、事業や取組を実施している事例も多くあります。

- ・ 規制・制度等への対応や公的な広報活動など、事業を実現する上で必要になると考える行政支援があれば、記入します。

- ・ 事業（取組やサービス）をより効果的かつ効率的に進めて行くアイデアがあれば、記入します。

天覧山周辺賑わい創出のためのワークショップ 第2回とりまとめ資料

■ 第2回ワークショップの概要

実施日時：平成29年1月11日（火）19:00～21:00
実施会場：飯能市役所別館2階 会議室3
参加者数：15名

- 第1回ワークショップで洗い出した天覧山周辺の「弱み」と「強み」について、①「弱み」を改善するための事業（取組、サービス）と、②「強み」をより活かしていくための事業（取組、サービス）を、事業内容、期待される効果実施する上での問題点・課題等で整理。
- 参加者が事業案を持ち寄り、共有しながら事業内容の深堀を実施した。

■ 「弱み」を改善する事業（取組、サービス）案

【案内人・ボランティアガイドの整備】

- ◆里山案内人(あんないびと)プロジェクト
- ・天覧山麓に案内所（拠点）をつくり、観光客向けに天覧山周辺の有償自然ガイドを実施
- ・有償対応のためガイドの雇用が発生するとともに、自然保護の意識も醸成にもつながる

- ◆観光ボランティアの設置
- ・観光協会内に観光ボランティアグループ（ボランティア人材バンク）を常設し、エコツアーガイド、森林セラピーガイド、森林インストラクター等を配置
- ・おもてなしの心がリピート増につながる

- ◆樹名板の設置
- ・天覧山の中段、頂上、多峯主山頂上などの入込客が滞在する場所を主に、樹名に加えて簡単な説明を付記した樹木板を設置
- ・樹木への興味、自然を大切にする心を醸成

【インバウンド対応】

- ◆曹洞宗寺院で日本文化体験プロジェクト
- ・市内に点在する曹洞宗寺院と協同し、外国人向けの座禅や茶席、写経体験等を有料で実施
- ・天覧山と寺院体験を組み合わせることで外国人客の滞在時間の増加及び消費行動につながる

- ◆「高尾山に学べ」プロジェクト
- ・インバウンド先進地の「高尾山」を成功事例として研究
- ・高尾山より都心に近い利点を活かした取組検討

【バリアフリー対応】

- ◆バリアフリーモデルコースの整備
- ・能仁寺から天覧山々麓を結ぶ、車いすでも観光できるモデルコースを整備
- ・老若男女誰でも登れる山の一層のPRにつながる

【回遊性の向上（ソフト整備）】

- ◆ウォーキングラリー／バススタンプラリーto天覧山
- ・期間限定（季節ごとなど）で、飯能駅、東飯能駅をスタートして天覧山・飯能河原を巡って市内の様々なところで楽しみらお金を落としてもらうイベント
- ・飯能の良さを知ってもらうことで定住にもつながる

- ◆ポイントカードの発行
- ・四季を通じて常時参加できるポイントカードを発行
- ・市内の飲食店から加盟店を募り、特典等も提供

- ◆西川材を使ったスタンプラリー、
- ・西川材を活用してピースを作成し、天覧山に登る方に販売。
- ・市内飲食店等を利用した際にピースに季節毎の焼印を押印、全て揃えば室内装飾品にもらえるように設計

【回遊性の向上（ハード（インフラ）整備）】

- ◆もっと気軽に飯能アルプス
- ・飯能アルプスは天覧山からスタートする健脚コースであるが、私有地を通る部分等を整備して気軽に山に親しめるコースとして整備

- ◆レンタサイクルの整備 – 自転車で飯能めぐり
- ・レンタサイクルを貸し出して市内の回遊性を高めて滞在時間を増加させ、消費行動につなげる
- ・公共交通アクセスが悪い所にある観光資源の発掘・利便性向上にもつながる

- ◆西武線における新駅設置
- ・東飯能駅と高麗駅間車両基地に新駅を設置
- ・天覧山、メッツアの回遊性が向上し、入込客数の増加が期待できる

■ 「強み」をより活かしていくための事業（取組、サービス）案

【来訪強化・ファンづくり – 子どもたち向け】

- ◆子どもたちと飯能イースター祭
- ・地元の子どもたちに飯能の良さを知ってもらうことを目的にイースター祭を4月に実施
- ・宝さがしイベントや卵料理を目玉にした料理などを振る舞う

- ◆飯能×タマゴ＝おいしいハンノウ（飯能・反応）
- ・イースター祭の目玉として「飯能らしさ」を盛り込んだタマゴ料理を創作
- ・新しい飯能グルメとして飲食店と協同して育てていく

【来訪強化・ファンづくり – 老若男女向け】

- ◆天覧山周辺花いっぱいプロジェクト
- ・四季折々に楽しめる花を植えて、いつ来ても花が楽しめる環境をつくる
- ・例えばワラビ窪（？）を一面の花畑にする

【来訪強化・ファンづくり – 物語の創作】

- ◆「ヤマノススメ」でもっと認知度向上プロジェクト
- ・東京MXテレビでの放送だったため、飯能市内では見られていない方が多いため、市内で見られる環境（施設）を整備
- ・アニメ内で登場した場所にアニメ画像を張って誘客を図る等を実施（スマホの既存アプリ等とも連携）

- ◆「多世代にわたる飯能ファンづくり」に向けた西武沿線自治体へのPR
- ・遠足の経験や記憶が再訪に繋がっていることが多く、来訪者が多い西武沿線の自治体や教育機関等に対して天覧山周辺のPRを強化

- ◆女性が来なくなるまちづくり
- ・四季折々に楽しめる花の植栽や、野菜販売、遊歩道整備により、女性が来なくなる環境をつくる
- ・女性が来ることで、家族連れやカップル、グループでの来訪が増加することが期待できる

【来訪強化・ファンづくり – 物語の創作】

- ◆子どもの遠足の聖地化プロジェクト
- ・鉄腕アトムやヤマノススメ、ムーミン等のアニメを活用し、「物語」をつくらFacebook等で情報発信
- ・教育委員会ではなく、マーケティング活動として「物語」を創作

- ◆ご利益のあるまち飯能
- ・様々なご利益のある市内の神社やパワースポットを巡っていただくための「物語」を制作
- ・パワースポットで定期的に1つ素材をテーマにしたイベントを企画してさらなる集客を図る

【地域資源の体系化・さらなる活用】

- ◆五感で楽しむHANNO
- ・既存の資源を活用し、視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚の五感を楽しめるまちとして売り出す
- ・自然体験と高級ホテル並みの快適なサービス・体験ができるグランピング等の誘致を図る

- ◆「中央公園」改め「天覧山公園」賑わいプロジェクト
- ・天覧山周辺の山道、池、樹木等を整備
- ・四季を通じて季節ごとの特徴を活かしたイベント（音楽、食等）や企画の開催



当日の発表内容及び、提出いただいた事業案シートの内容から記載



皆さんの発表内容等を踏まえて、事務局で事業案として抽出して記載

天覧山周辺賑わい創出のためのワークショップ 事業案とりまとめ（第2回、第3回ワークショップ報告）①

■ 「弱み」を改善する事業（取組、サービス）案

【案内人・ボランティアガイドの整備】

- ◆里山案内人(あんないびと)プロジェクト
- ・天覧山麓に案内所（拠点）をつくり、観光客向けに天覧山周辺の有償自然ガイドを実施
- ・有償対応のためガイドの雇用が発生するとともに、自然保護の意識も醸成にもつながる

- ◆観光ボランティアの設置
- ・観光協会内に観光ボランティアグループ（ボランティア人材バンク）を常設し、エコツアーガイド、森林セラピーガイド、森林インストラクター等を配置
- ・おもてなしの心がリピート増につながる

- ◆おもてなし隊（ガイド）の編成
- ・天覧山に詳しい人を組織して編成
- ・ユニホームを作って統一感を創出

【インバウンド対応】

- ◆曹洞宗寺院で日本文化体験プロジェクト
- ・市内に点在する曹洞宗寺院と協同し、外国人向けの座禅や茶席、写経体験等を有料で実施
- ・天覧山と寺院体験を組み合わせることで外国人客の滞在時間の増加及び消費行動につながる

- ◆「高尾山に学べ」プロジェクト
- ・インバウンド先進地の「高尾山」を成功事例として研究
- ・高尾山より都心に近い利点を活かした取組検討

【バリアフリー対応】

- ◆バリアフリーモデルコースの整備
- ・能仁寺から天覧山々麓を結ぶ、車いすでも観光できるモデルコースを整備
- ・老若男女誰でも登れる山の一層のPRにつながる

【情報発信・広報活動の強化】

- ◆情報の充実化
- ・高尾山と比較すると天覧山周辺の情報は充実していない
- ・個人によるネット等での情報発信を市や企業が支援することで発信情報の充実化を図る

- ◆樹名板の設置
- ・天覧山の中段、頂上、多峯主山頂上などの入込客が滞在する場所を主に、樹名に加えて簡単な説明を付記した樹木板を設置
- ・樹木への興味、自然を大切にする心を醸成

- ◆ぶらり散策マップの作成・配布
- ・飯能信金、駿河台大学・自由の森学園との産学連携の枠組みを活用し、学生の視点を盛り込んだマップを作成・配布

- ◆情報発信基地の開局
- ・SNS、ファイスブック、PV等で多数の情報をとりまとめて発信

- ◆プロの写真家を活用した情報発信
- ・プロのカメラマンを活用し、飯能の魅力を写真を通して発信

- ◆「飯能観光大使」の任命
- ・自由の森学園出身者等、市外で活躍する著名人を観光大使に任命し、大使の活動を通して飯能の魅力をPR

- ◆限定列車「奥武蔵」の運行
- ・西武鉄道と協同し、ヘッドマーク・ラッピング電車を運行（秩父ウイスキー祭りのプラチナ号を参考）

【回遊性の向上（ソフト整備）】

- ◆ウォーキングラリー／バススタンプラリーto天覧山
- ・期間限定（季節ごとなど）で、飯能駅、東飯能駅をスタートして天覧山・飯能河原を巡って市内の様々なところで楽しみお金を落としてもらうイベント
- ・飯能の良さを知ってもらうことで定住にもつながる

- ◆西川材を使ったスタンプラリー
- ・西川材を活用してピースを作成し販売
- ・市内飲食店等を利用した際にピースに季節毎の焼印を押印、全て揃えば室内装飾品にもらえるように設計するなど、地域産業と連携

- ◆「めざせ、天覧山」ウォーキングイベント
- ・歩くことを楽しむ「フットパス」を、グルメ、アニメ聖地、路地裏など複数ルート整備
- ・周遊ルートの出口を食事場所にする等に設定し、地域産業の活性化にも寄与

- ◆ポイントカードの発行
- ・四季を通じて常時参加できるポイントカードを発行
- ・市内の飲食店から加盟店を募り、特典等も提供

- ◆「銀座通り」から「天覧山アベニュー」へ
- ・寂れている銀座通りを「天覧山アベニュー」としてリニューアルし、歩いてもらえる街づくりを目指す
- ・西川材等をふんだんに使いながら、昔ながらの活気ある町並みを創出

- ◆七福神めぐり

【夏場等の閑散期の活性化】

- ◆「ロゲイニング」の開催
- ・市内に多数のチェックポイントを設置し、そのポイントを巡ることで特典が得られるイベントを実施
- ・夏期等の閑散期に実施し、にぎわいを創出

- ◆飯能市夏祭りの実施
- ・現在5つの町内会で実施されている夏祭りを飯能市全体に拡大
- ・飯能独自の底抜け山車等、飯能にこだわった夏祭りにし、夏場に賑わいを創出

- ◆ひな祭りin飯能

【回遊性の向上（ハード（インフラ）整備）】

- ◆もっと気軽に飯能アルプス
- ・飯能アルプスは天覧山からスタートする健脚コースであるが、私有地を通る部分等を整備して気軽に山に親しめるコースとして整備

- ◆レンタサイクルの整備
- ・自転車で飯能めぐり
- ・レンタサイクルを貸し出して市内の回遊性を高めて滞在時間を増加させ、消費行動につなげる
- ・市内数カ所にポートを設置し、乗り捨て可能にすることで利便性も高める
- ・公共交通アクセスが悪い所にある観光資源の発掘・利便性向上にもつながる

- ◆西武線における新駅設置
- ・東飯能駅と高麗駅間車両基地に新駅を設置
- ・天覧山、メッツァの回遊性が向上し、入込客数の増加が期待できる

- ◆ここにこ休憩所の設置
- ・「空き家」等を活用し、観光客等が気軽に立ち寄れる休憩所を市内各所に設置

【飲食・消費拡大の工夫】

- ◆森のレストラン＆ギャラリー
- ・歴史的建物の解体部材（古材）等を活用し、おしゃれなレストラン＆ギャラリーを提供
- ・天覧山周辺に少ない飲食場所を提供するだけでなく、憩いの場・拠点としても利活用

- ◆地域商品券の発行
- ・天覧山周辺に少ない飲食場所を提供するだけでなく、憩いの場・拠点としても利活用

- ◆日持ちする名物（お土産）の開発
- ・味噌付けまんじゅう、しりもち等の名物はあるが日持ちしないことが難点
- ・2週間程度日持ちする名物を開発

第2回でのご意見

 当日の発表内容及び、提出いただいた事業案シートの内容から記載

 皆さんの発表内容等を踏まえて、事務局で事業案として抽出して記載

第3回でのご意見

 当日の発表内容及び、提出いただいた事業案シートの内容から記載

 皆さんの発表内容等を踏まえて、事務局で事業案として抽出して記載

■ 「強み」をより活かしていくための事業（取組、サービス）案

【来訪強化・ファンづくり – 子どもたち向け】

- ◆子どもたちと飯能イースター祭
 - ・地元の子どもたちに飯能の良さを知ってもらうことを目的にイースター祭を4月に実施
 - ・宝さがしイベントや卵料理を目玉にした料理などを振る舞う



- ◆飯能×タマゴ＝おいしいハンノウ（飯能・反応）
 - ・イースター祭の目玉として「飯能らしさ」を盛り込んだタマゴ料理を創作
 - ・新しい飯能グルメとして飲食店と協同して育てていく

- ◆にここ池、水辺の楽校
 - ・子ども向けに環境教育を実施

- ◆「ヤmanosスメ」でもっと認知度向上プロジェクト
 - ・東京MXテレビでの放送だったため、飯能市内では見られていない方が多いため、市内で見られる環境（施設）を整備
 - ・アニメ内で登場した場所にアニメ画像を張って誘客を図る等を実施（スマホの既存アプリ等とも連携）

- ◆「多世代にわたる飯能ファンづくり」に向けた西武沿線自治体へのPR
 - ・遠足の経験や記憶が再訪に繋がっていることが多く、来訪者が多い西武沿線の自治体や教育機関等に対して天覧山周辺のPRを強化

【来訪強化・ファンづくり – 物語の創作】

- ◆子どもの遠足の聖地化プロジェクト
 - ・鉄腕アトムやヤmanosスメ、ムーミン等のアニメを活用し、「物語」をつくらせてFacebook等で情報発信
 - ・教育委員会ではなく、マーケティング活動として「物語」を創作

- ◆ご利益のあるまち飯能
 - ・様々なご利益のある市内の神社やパワースポット（羅漢像等）を巡ってもらうための「物語」を制作
 - ・パワースポットで定期的に1つ素材をテーマにしたイベントを企画してさらなる集客を図る

【来訪強化・ファンづくり – 老若男女向け】

- ◆天覧山周辺花いっぱいプロジェクト
 - ・四季折々に楽しめる花を植えて、いつ来ても花が楽しめる環境をつくる
 - ・例えばワラビ窪（？）を一面の花畑にする

- ◆女性が来なくなるまちづくり
 - ・四季折々に楽しめる花の植栽や、野菜販売、遊歩道整備により、女性が来なくなる環境をつくる
 - ・女性が来ること、家族連れやカップル、グループでの来訪が増加することが期待できる

- ◆桜並木プロジェクト
 - ・オーナー制で出資者を募り桜を植樹し、桜並木を新たな観光スポットとして育てる
 - ・桜以外にも、赤・黄等多様な色の紅葉街道も

- ◆散歩（歩く）まち
 - ・市内や天覧山を歩くことに加え、飯能河原でウォーターバレーができるようにし、川の散歩も実現
 - ・若い世代や健康志向が強い消費者に訴求

- ◆観光案内看板オーナー制度
 - ・方向案内板等の設置にオーナー制度を導入
 - ・案内板にオーナー名を彫る等することで、オーナーの来訪、飯能への愛着強化を図る

- ◆天覧山頂 振武軍物見櫓建立
 - ・戊辰の役で振武軍の本陣となった天覧山頂に建立された物見櫓を復元し、歴史再認識の場とする
 - ・加えて、天覧山のシンボルとしてPRし、観光資源としても活用

- ◆奥武蔵・飯能市サポート倶楽部の創設
 - ・市外の人向けにサポート倶楽部を創設
 - ・市内で活用できる地域商品券を贈呈するなど、飯能への来訪を促進

- ◆駅での「おもてなし」
 - ・飯能駅や東飯能駅等の駅のホームで、郷土芸能、演舞等を行い、観光客をおもてなす

【豊かな地域資源の積極的活用・体系化】

- ◆「にぎわい門前市」の拡大
 - ・能仁寺門前市を常態化し、野菜販売に加えて地場工芸なども販売
 - ・来場者には飯能市内の食や買い物マップを配布し、市内商店街等への回遊を誘う仕組みも準備

- ◆五感で楽しむHANNO
 - ・既存の資源を活用し、視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚の五感を楽しめるまちとして売り出す
 - ・自然体験と高級ホテル並みの快適なサービス・体験ができるグランピング等の誘致を図る

- ◆「中央公園」改め「天覧山公園」賑わいプロジェクト
 - ・天覧山周辺の山道、池、樹木等を整備
 - ・四季を通じて季節ごとの特徴を活かしたイベント（音楽、食等）や企画の開催

第2回でのご意見



当日の発表内容及び、提出いただいた事業案シートの内容から記載



皆さんの発表内容等を踏まえて、事務局で事業案として抽出して記載

第3回でのご意見



当日の発表内容及び、提出いただいた事業案シートの内容から記載



皆さんの発表内容等を踏まえて、事務局で事業案として抽出して記載



天覧山周辺賑わい創出事業 第4回ワークショップ記録



1、第4回ワークショップの概要

■ 開催概要

日時：平成29年2月14日（火） 19:00～20:45

会場：飯能市役所別館2階 会議室3

■ 第4回ワークショップで実施したこと

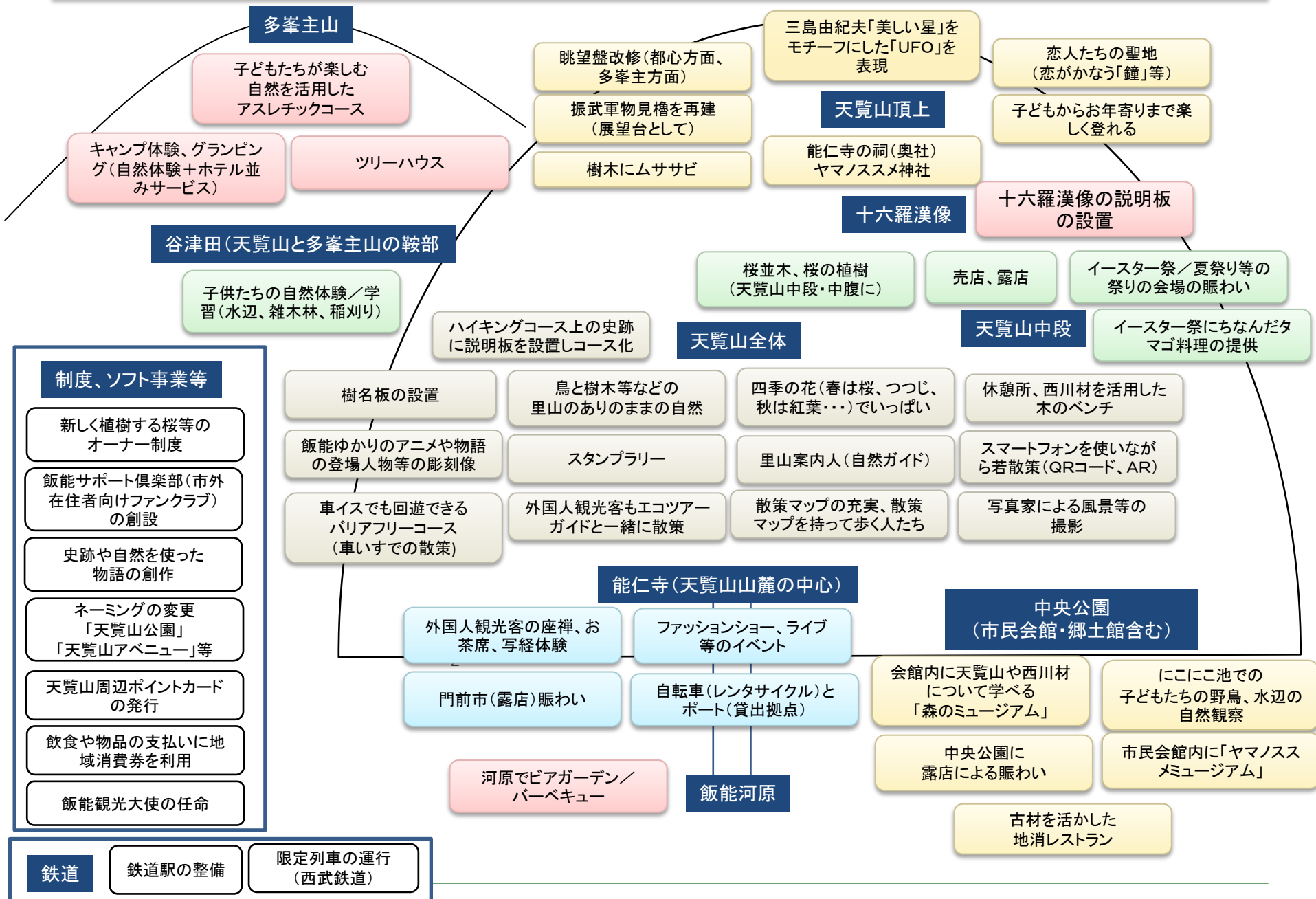
- ・ 第2回と第3回ワークショップでは、天覧山周辺の「強み」と「弱み」を踏まえ、天覧山周辺に賑わいや憩いをもたらすための施策や取組などを広く検討してきました。
- ・ 今回は、天覧山周辺の将来のあるべき姿を「地図（ビジョンマップ）」として描いていくために、天覧山周辺（天覧山、能仁寺、多峯主山等）により焦点をあて、天覧山周辺の「どこ」に「何（施策、取組み、要素など）が必要なのかを、これまでのワークショップで出た意見を元に整理しました。
- ・ また、広く市民や観光客に示していく天覧山周辺の将来像をあらわすキャッチコピーについて、3つの事務局案を参考に参加者で検討しました。

■ ワークショップでの皆さんの議論を踏まえたアウトプット（成果物）

- ・ 整理した天覧山周辺（天覧山、能仁寺、多峯主山等）に必要な「モノ」などを踏まえて、天覧山周辺の将来像をわかりやすく描いた「地図（ビジョンマップ）」を作成し、公表します。（A1サイズ、カラー）
- ・ 皆さんと検討した将来像とキャッチコピー案を踏まえて、天覧山周辺の将来像を端的にあらわす「キャッチコピー」をまとめていきます。

2、天覧山周辺に必要な「モノ」

※ これらの「モノ」を踏まえて、事務局で整理しながら地図を作成していきます。



3、天覧山周辺の将来像と「キャッチコピー」

■ 将来像と3つのキャッチコピー案（事務局案）

- ・ 関係団体や民間事業者など多様な主体との連携・協働のもと、天覧山周辺の豊かな自然環境や歴史・文化に培われた地域資源をさらに磨き上げ、天覧山周辺の可能性を最大限に引き出した、子どもからお年寄りまで、市民にとっても観光客にとっても魅力あふれるエリアを目指します。
- ・ これまでの来訪者の中心的存在であった子どもや高齢者はもとより、若者や訪日外国人観光客等の新たなターゲットに訴求できるエコツアー等のメニューの充実や戦略的なプロモーション活動を積極的に推進し、地域で稼ぎ、いつも賑わいを感じることができるエリアを目指します。

キャッチコピー案① 磨き上げた地域資源が賑わいと消費をもたらすエリア（まち、地域）

キャッチコピー案② 地域資源を活かした市民と観光客が共に集うエリア（まち、地域）

キャッチコピー案③ いつ来ても新たな魅力が発見できるエリア（まち、地域）

■ 皆さんの意見

- ・ 「地域資源を活かす」という表現は盛り込みたい
- ・ 「自然」という言葉は入れたほうがよいのではないか
- ・ 身近なところに自然があることの魅力を訴えた方がよい
- ・ 市民と観光客では「地域資源」の捉え方も異なる点に留意したい
- ・ 「地域資源」という言葉は全国どこでも使われており、天覧山の特徴を表現できる「四季」「歴史」「自然」などを使った方がよい

- ・ 天覧山周辺に「消費」というキーワードを入れるのは、市民にとって違和感があるのではないだろうか
- ・ 「消費」という観点を入れるのであれば、「購入」としたほうがよい
- ・ 観光は「消費」を伴うものであり、直接的な言葉を入れなくてもよいのではないか

- ・ キャッチフレーズなので、短い表現のほうがよい
- ・ 「交流」は人がするものなので、「市民」、「観光客」のキーワードは不要ではないか

■ ワークショップで整理したキャッチコピー案

「四季」と「歴史」と「自然」を活かした、賑わいと交流をもたらすエリア